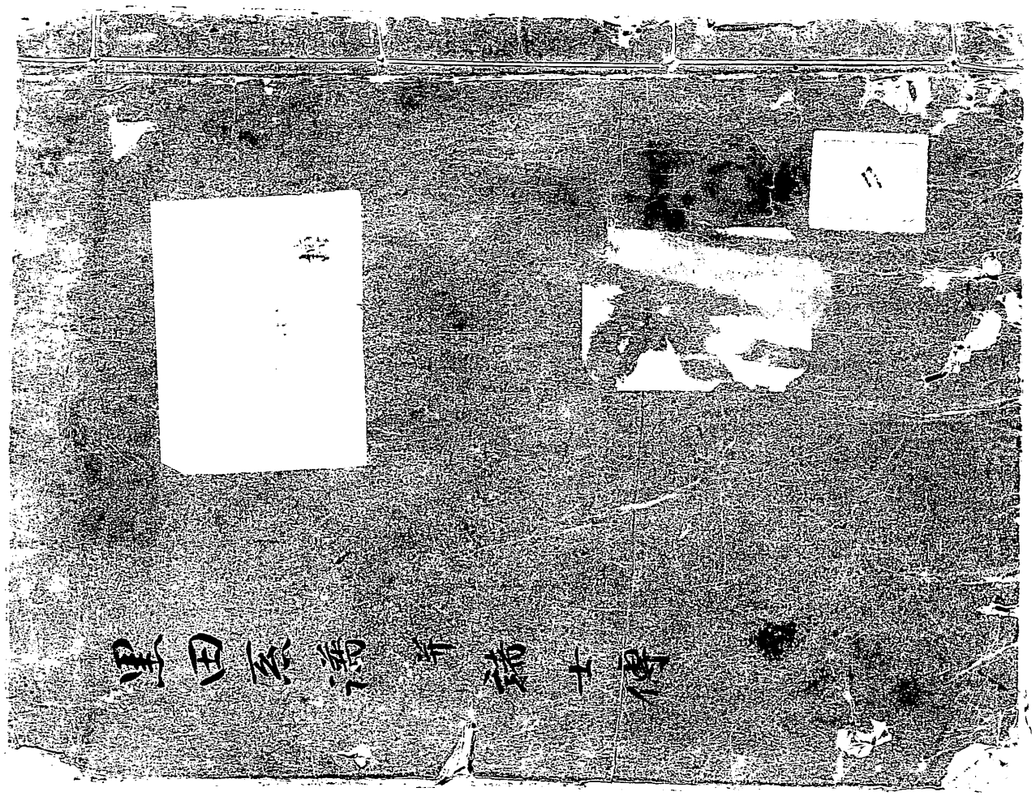
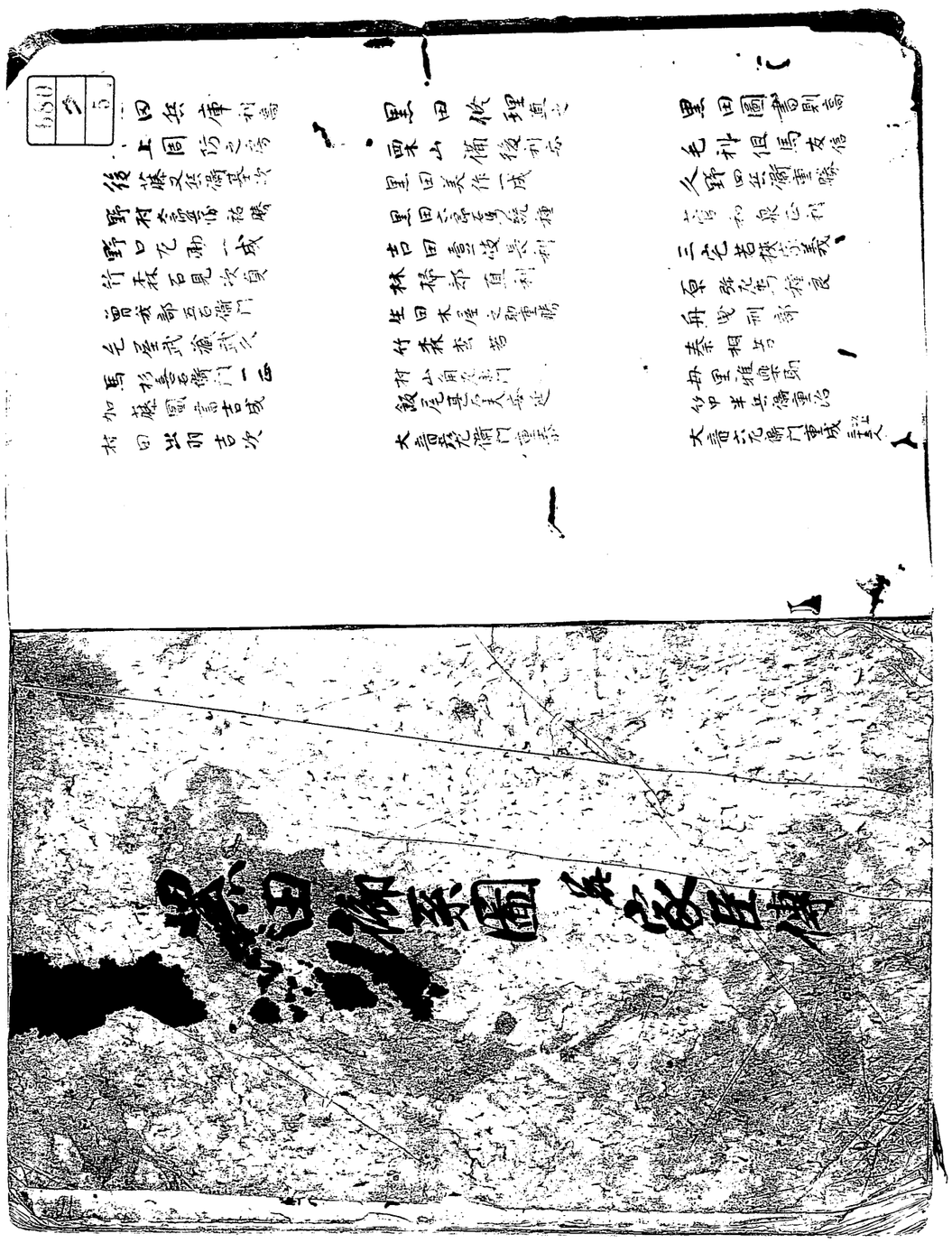
文書名	黒田系譜并諸士傳　No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学中央図書館
撮影年月日	昭和56年 7月 15日

福岡県文化会館




後藤野村
竹森
生田
林
吉田
大高荒川
久野
毛利
大高荒川

23.3.31
1046
176454

帝國圖書館藏書之印

御系図

○重隆

初名黒田源五英庫助後黒田下野守ト
名乗黒田右京亮又高政次男ヲ伝莉ヲ
赤坂郡福岡谷ノ人ヲ永正五戊辰年
出生後ニ英作ヲ相続ス有リ成人播州
長瑞山城主赤松播磨守入道照武創政
屋敷ニ仕ヘ年久所ニ軍功有リ終ニ播州
ニテ五十七歳ニシテ永禄七甲子二月上旬
卒ス曹洞禅宗ヲ法名
照岸宗卜居士ト号

○識隆　童隆十七ノ時ニ初名源五郎左衛門
黒田甚兵衛守ト名付後ニ小寺ト成ル播州
賀古郡大永四年黒田姫路ニテ生ル成人後黒
五着城主小寺加賀守嫡子小寺藤兵衛尉
政職仕ヘ年久度々軍功ヲ政職数千騎ヲ率テ
威ヲ近国ニ振フ識隆是ニ付テ度々軍功有
シ故ニ小寺ノ同名トヤ政職死テ子ナシ其留守
陸ヘリ天正三乙亥十月ニ信長下知ニヨツテ羽
柴秀吉播列下ル志ニテ此父分ニ数シ人ヲ所々
ニテ軍功アリ終ニ播列ニテ六十二歳ニシテ大正
十三乙酉八月廿二日卒ス法名　前濃州太守
満誉意心光宗安大居士
鎮西浄土宗姫路心光寺納ル此妻明石宗和
氏人後ノ氏ト云後妻神吉民部娘父ノ妻英
河原和泉娘母ノ父ノ名氏

千左衛門　後ノ左ト云　次郎兵衛尉

勘七　後勘解由　友氏ノ子ニ天文年中此日吉舎ノ
城主井手左近太夫義子ト成テ井手氏ト称

○孝高　識隆二十二ノ中ヨリ始ハ黒田村氏　明石氏
初名ハ吉兵衛官兵衛尉勘解由ト文書ニ
西郡猪ノ口ノ里ニ天文十五丙午十一月廿九日
姫路ニテ生ル元弓馬ノ道ニ長シ又歌連哥ニ
モ達セリ十七歳ノ時四海ノ乱レタルヲ見テ弓
矢ヲ取テ常ニ士卒ニ先駆テ手柄ヲ彰セリ
出生後ニ同郡山崎城主小寺加兵衛尉政職ヘ
仕テ同氏相続ス後ニ信長下知ニ依テ天正
初乙未十月羽柴秀吉播磨ヲ向ヒ十五丁未
杖ヲ立ラルヽ古城ヲ攻ル同十九辛酉　久々崎城

長政相続ス所々ニテ軍功アリ永禄十二己巳年
赤松下野守同大軍起シテ姫路ヲ攻ル孝高青
山ニ陣取松岩ヲ囲ミシ大ニ合戦シ三十余騎ヲ
討取威名大ニ張ル元亀元庚午年信長ノ命ニ
入ヲ守テ織下ニ属セントテ上洛シ礼ヲ申信長
対面服ヲ給ハリ帰ル為ニ家ニ伝ケルハ我中国ヲ
平ケハ西ノ方ヲ以テ先キトセント其ニ約シテ
帰ル同乙酉年中国ヲ攻ル時秀吉播磨ヲ英賀ニ陣取姫
路ノ城ヲ窺ヒ見ル孝高ヲ呼テ秀吉ヲ移サス英賀ヲ
敵ル故軍ス信長西国ヲ経略ス　丙子年信長

播ノ秀吉ニ切取ミスヘシトシ付孝高先立
ツ使ヲ送リ新ムカヘ奉ル秀吉十月ニ播ニ入
ルニ新宮ヲシテ今ヨリ後ハ我ト汝ト兄弟タラ
ン亦タカフルナカレ東播ノ事日ニ隨フ孝高カ
功タリ西播ノ下知ニ不随作用上月命ヲ不用
孝高先手トシテ作用ノ城ヲ攻ムヘシ
コヲヘ為テツキヌケントス出ケルヲ兄弟ニ訂和ス

日ニ城ヲ奪取
真玉曰作用城攻落シ給フ内 信長公ヨリ
内感状ヲ給フ
夫ヨリ上月ノ城ヲ囲ム数十日ヲ経テ落ス
真玉孫自不抜スル有

孝高先手トシテ宗為ス秀吉大ニ喜テ左刀ト
名ヲトシ給ル山中鹿之介シテ城ヲモメシモ也
演ニ新入行フ信長ヲ伺テ内感状ヲ給同五丁丑ノ年
四月中国及紀伊雑賀ノ城兵八十余人一ツニ
成テ播ノ別所ノ城ヲ責ル秀吉ヲテ孝高ニ加勢
ヲ乞孝高精兵又百余人ヲ連城中ノ兵ト諜
合テ自仰先進テ八十人ニ尚ルカヲ尋シ責戦テ
七十余人ヲ切歌剛ヲ失テ退ス信長及秀吉
軍功ヲヨミシテ感状ヲ行フ同六年九月

美濃ノ稲葉伯耆守ノ謀叛秀吉知音ノ故ヲ以テ孝高ヲ城
中ニ召ノコトヲ怪シ長政ニシレメントス美濃ノ内ス
ニシテ孝高ヲシテ城中ニ召ヒ孝高カ一族父職隆ニ
告テ曰セントス職隆曰先ヨリ久敷伝長ノ人
賢ニイカテカ人賢システンヤ美濃カ孝高ヲトラ
ハ他義ノ人ニ陸ンヤ親族理ニ伏シテ
人ヲ定メ秀吉ニ告ケ孝高城ヲヌケ出メリ同
七日ノ年秀吉伝長ノ下知ニ依テ播磨ノ勢ヲ率
シテ但馬国ヲ攻ル年賀古川ニ到ル河ニ木
城主ノ伝長ト合テ謀叛ノ人別所ヲ取ニ
陸ヲ秀吉ハカリコト極テ行セントス孝高ヲ秀吉
ヲシテ先出写山ニ陣トラシム毛利并宇喜多カ
勢ハ合六万人上月城ヲ攻囲ム秀吉孝高
ヲ助ンカ為ニ高陣取小勢ナルニヨツテカ勢ヲ
伝長ニ乞侵ヲ巻シテ軍ヲ引取シム是ニ依テ高
倉山ヲ捨テ出写山ニ陣ス同八度辰年三木ノ城
ヲ攻正月十七日別所長治ニ火ヲカケ四方ニ
秀吉ニ木ノ城ヲ取居城ニセントス孝高曰此地
播磨ノ片隅ニ居城姫路ヲ治ス人皆以敷
ナリトイヘリ同十七午年秀吉毛利ヲ征伐

備中ニ於テ城ヲ築キシ志水伯耆守宗治ハ秀吉ノ命ニ
依リ天正十年六月十四日ニ毛利ト和議シ
西ノ洞院ヲ能ク守ルニ於テ信長ヲ殺ス光秀ヲ亡ボシ
テ以来ノ告ヲ秀吉ニ送ルメテ毛利ト和議シ
六月十三日明智ヲ滅ス同十一月末年ニ西ヲ征伐シ
秀吉軍功アリ同十四年天正十年ニ秀吉ハ命シテ
羽柴筑紫エイラントスト秋秀吉ヲシテ四国中
国ノ兵三千人ヲ率テ豊前ニ出ル小倉ノ津
宇留津ノ城ヲ攻ム城主ハ長宗我部元親ニ
書岳ノ城ヲ囲ミ高松城ヲ攻ム毛利方迎撃ス城井直房
明智ヲ滅ス公家ニ成ル秀吉ハ出征ス孫次郎信孝
尾張国中伊勢ノ方面中国ヲ攻ム十四年
秀吉ハ筑紫ニ入テ軍ヲ分テ薩摩ヲ征ス
秀吉ハ摂津ニ有テ摂津ト戦テ大ニ勝ス摂津
和議ス秀吉摂津ヲ有ス秀吉ハ摂津ヲ
十六年ニ至ル年五月勅命ヲ受ケ秀吉初メ
ヨリ軍法ヲ問トイヘ足利大志ヲイシテ大名ニ任ス
ハス十七年ニ至リ秀吉ハ聚楽ヲ築キ二ヨリ陽居シテ
入ラシメ水ト号ス文禄元年壬辰秀吉朝鮮ヲ
征ス長政父ノ大名タリ同二癸巳年秀吉

如水ヲ召テ其旨ヲ給テ曰ク汝軍ヲ率ヒ
制スヘシト雖モ勝ツ度ハ南面秀次ヲ陳テ海内セシム
秀次不才度終ニ滅亡ス人ニ智恵ヲ減ス故ニ
長五庚子年家康公奥州景勝ヲ征ス長政
先陣タリ如水ハ本城ニ留ル八月石田三成謀叛ノ告
有ルニ石田三成増田正澄毛利輝元ト大友義統
ヲ取立テ豊臣ヲ入九州ヲシスメントス如水先ヲ
ツヤテ九月三日ヲ焼ク逆水部立石ニ於テ大友ト
合戦シ投石人ヲ殺シ義統ヲ生虜ニス同風
安兵ハ敵合内名重ヲ攻ナリ冨来ハ恒足和泉ヲ

城ナリ西人ニ石田カ党ニシテ関ヶ原ニ有城代ト数
人ヲ出シテ合戦ス如水数ヲ我テ終ニ勝城代降ス
此時伊集院ニ虎大坂ヨリ下テ兵庫ニ泊ル如水早ク
追急取二渡ヲ取伏之九州半麻下ニ虎スメセシテ
安ヲ小倉ノ城ヲ取毛利吉政降ス自先カ
主計頭清正ト一手ニシ九州ノ制法ヲ定九月
家康公大坂ヲ平ケシ行フ十月如水大坂ニ登リ
家康公ニ見ル九州ノ軍次第ヲ為給フ如水
行ハントス如水老年ノ故ヲ以テ辞退シテ清庵
名ヲニテ孝ヲ為ル十九歳ニシテ家ヲ九甲辰年

三月廿日卒ス法名龍光院殿妙水園清居士ト号
此妻播列志摩城播磨豊後守正真娘寒ハ村上
源氏貞平親王伊勢ノ北畠大納言末裔小木村上末裔
別表松末系ニ播磨守也

○長政　孝高公二十二ノ四子也母ハ播磨守姫之初
祝言市兵衛尉甲斐守ニ任シ長政墨田龍寺ト
成播列鎗東都路岩永孫十一成辰十二月二ノ出生
幼少之時人質トシテ信長ニ移信長秀吉ニ託ケテ
近江ノ長浜ニ有十四歳ノ時父ト共ニ秀吉ニ随ヒ江列
梁ヵ瀬ニ移ル第四合戦ノ時初テ首ヲ取　天正十二甲申
年紀伊雑賀ノ一族和泉ノ岸和田ノ
城ヲ責ル名代トシテ移テ首二ツ取同十六年戊
辰年秀吉筑紫ヲ入ル　長政移ル豊前ノ国ノ財アニ
戦ヒ薩摩ノ島津ノ川原兵川大口ニ終テ高名有リ
自筆敵ヲ切テ大ニ名ヲ顕テ九列年ケテ後ヲ
六郡ヲ給フ久々ニ一揆大ニ起リ要害ニ城ヲ構エ
サワタニハ城井中務伊予中尉田中ノ者ハ法寺孫次郎
小方ニモ下毛宇佐ニ郡ノ者長政一々ニ討ヲ責
教ヲ首ヲ切事千五百余ニ及大坂ニ移ス秀吉ニ

悦テ名護屋ヲ給十七己丑年六月十七日従五位下ニ叙シ
甲斐守ニ任ス同十九辛卯年秀吉朝鮮ヲ征
セントシテ肥前上松浦郡名護屋ヲ築セシム
タリ文禄元壬辰年秀吉名護屋ニ到リ小西
行長ヲ先鋒トシテ義弘ヲ大将トシテ五十人
大友侍従吉統ヲ二千人毛利吉成ヲ二千人
島津人ヲ侍従ヲ秋月ヲ伊達侍従ヲ鍋島侍従ヲ
総合テ二十人総合二万五千人或ハ数万人
カハルヽ一日ヲ隔テ先陣ヲナシ釜山城ヲ
スキ先ヲヨリ昌原ノ城ヲ責落シ住城ニ入釜山城
王城ヲ例ヘ逐タリ小西行長ハ平壌ニ陣取王城ヲ

去ル事五日後奥ヲ攻ハ大友侍従吉統ヲ先鋒ニ
島津義弘ハ小早川隆景ヲ道筋ニツナキノ城
ヲカヽエタリ大明ハ接兵数十万騎平壌ヲ責
小西安治ヲ数ヲ大友ニ先ヲ大友侍従大軍ニ当ジテ
シテ城ヲ捨テ主城ニ逃入小西カ軍勢ヲ討ントテ長
カ家臣小河伝左衛門カ統泉ノ城ニ来ルコウムトヲ
所ニハ栗木山中左衛門ヲ遣セ長政海別ヨリ沈来テ
小西ニ味方ス小西カ旁タル兵ヲ助ヘ出シ入侵ヲ
隆景カ所ヘ出シテ日人数ヲ語ラヒ大明人ト一
戦ヲ遂ントテ隆景ヲ志ニ敵国境ニ来ルヘシ

小ヲ以大ニ敗ラシメ用ヒ難シトモ之ニ依リ紀ヲ降トル長政実城ニ
入テ隆景ニ会シ隆景ヲ守テ攻セントス大谷
刑部ハ高王城ヨリ来テ隆景ヲ説ク毛利元包ノ二男ニ對シ
テ長政ニ引取ベシトス繁ラ之ニ申ニヨリ大谷
吉継ヲ王城ニ入ケリ数日ノ後大明ノ兵関城ノ
川ヲ渡シテ王城ヲ攻ル隆景長政立花ヲ以テ先陣
トシテ合戦シテ大ニ勝ル者数十人
王城ノ兵モ業堵ノ後ノ敗ル日本ノ兵モ釜
山浦ニ退ク同二年大閤ノ下知ニ依テ諸将ト
同ク晋州ノ城ヲ攻ル七日ノ日ニ城ヲ攻ル長政手

廿一セ和(注)間テ敗軍敗洛ス蒙長元丙申年又釜
鮮ニ入テ長政櫻山ニ敗テ万余人ヲ切捨ヒヨリ深
山ヲ以テ東津トス大明ノ兵八百万騎廿蔚山ノ
城ヲ囲ム長政法ヲ以テ後ヒ敗テ人ヲ殺シ大明ノ
兵ヲ逐散ス大ニ又小西カ領ス人ノ城ヲ囲ム長政
軍ヨリ早ク敗ヲ以ヒ兵ヲ敗ニ小西安意シテ帰ル
秀吉家康ヲ長政深ク恨ム丁酉年
六月家康父保科弾正ヲ以テ書君トシテ
長政ニ帰ス七月家康ヲ奥州ノ長庭越後
家勝ヲ征ス長政ヲ陣トシテ下野ノ宇都宮ニ

其時ニ石田三成深敵ニ而苦まれ家康ニ上方ノ
侍ヲ引入ンためニ長政ニ賄ヲ給リ武州ノ大名を
上リ下野小山より奥羽ニ発ス家康ハ
此行ヲ小山ニ下リテ軍評定有テ此時ニ他ノ諸
主ノ人馬ヲ下ス八月尾州ニ着キ大川ヲ渡リ
波阜ヲ責ト評定ス池田ニ左兵衛福島左衛門
其二日川ヲ渡波阜ヲ責諸ニ長政田中ハ川ヲ
渡ケレ共波阜ヘカルニ不及合渡ニ石田カ兵年度
諸ノ為ニ陣ヲ張ヲ入テ事ハ二ニ軍計ヲ意ヲ
合渡ヲ渡シテ其数ヲ数ヲ進撃数百騎討死石田モ

大渡ニテ出テヨリル勢ヲ大橋ヘ取ニ更ヨリ逆ル
本国ヲ責ケ関ケ原ニ陣取ル家康ノ命ヲ
ウケテ秀吉中納言ヲシテ巧方ニ引入ル文吉ヲシ
ケル毛利カ家老吉川義人福原或カ所ヘ
家ニ使ヲ送シ毛利輝元ヲシテ巧方ニ引入ル
手ヲヲシケリ毛家ノ幼主調ルヨシ告申九月
十四日家康公常陸ニ着陣ニ為ル小山ヲ出ル
二三成ニ市郎右衛門ヲ石田宇喜田浮津大橋ヲ
打出関ケ原ニ陣取毛利輝元ハ南ニ南山ニ陣取
秀秋中納言ハ初ヨリ松尾山ニ有今秋已ニ始テ

長政自分石田カ陣ニ突入シ大ニ戰テ先ツ敗ル
以前中納言秀秋ノ命ヲ受切シ来ル人数ハ
皆シ月ロウス有ケレハ石田宇喜田旗軍シテ四方ヘ
近ク又天下未服仕シテ家康ハ大坂城ニ
入行ツ以前信濃ニ恩賞ヲ行ハル長政先ヲ而シ
物シテ福島ヲ一国ヲ行フ福島ヲ石塚トス同八月廿四
年紀州ニ任シ従四位下ニ叙ス十一月十年
江戸石垣ヲ築十五庚戌年一尾別名古屋城
始ル役ス十九甲寅年大坂陣ニ軍出陣而出進ス
有テ大坂ヲ責長政ハ江戸ノ留主居ヲ仰付ル
ヲ以テ之ヲシテ紀州ヨリ陣中ニテ同ク仕ル
方ノ責口ヲ始ル大坂落城後ニ流大名帰国仕ル
年ニ大坂又起ル而ハ江戸ノ留主居ヲ仰付ル長政モ
軍ノ法ニ倣フ四月七日大坂没落ス元和二丙辰
年家康薨ス葬ニ終ル下野ノ日光ニ葬東照
権現ト號ス奉ル長政ハ国中ノ大石ヲ以テ石垣
ヲ作ル長サ数丈大船ニテ運ル而ハ国ノ人ヲ出シ日光ヘ
長政修繕而外ニ寄ス元和九癸亥年ノ春患ヲ以テ沿
ノ人メメ報恩寺ニ住ス

秀忠ノ家光ニ譲リ度ケレトモ遠慮ノ出度ケレトモ
八月四日卒ス歳五十二ハ法名真雲院殿前
中大夫筑州都督古忠道ト大居士神儀
筑前國筑紫郡崇福寺禪寺ニ葬ル崇福大
法寺江月和尚引導也初嘉慶院ニ葬ル家
娘後妻彈正忠致娘ニハ家屋ハ極也

○忠之

母保科彈正忠正直娘長政三十七ノ時ニ
初名万徳 吉兵衛 右馬作 長ニ筑前ト云

筑前ニ打入ル福岡城ニテ生レ元和七年十二月十
九日ニ生レ同十七ニ成ル十二月初テ駿河ニ下向シ
家屋ニ住ス同十八ニ元服シ右馬作ト改
長兵ノ刀正宗ノ脇差ヲ帯ス同十八
癸丑年正月廿一日江戸ニ下向秀忠ニ謁ス
仕ル諱ノ忠ノ字ニ成下ル松平ノ氏ヲ給ル御
腰物并國次ノ脇差ヲ下ス同年二月初テ法
度ニ任ス同十九甲寅年大坂陣ニ忠之四中ノ
人数ヲ引ル住吉ヲ陣所トシ一方ヲ受元和元乙卯
年夏大坂陣ニモ引ル寛永三丙子年八月修羅

下ニ叙シ侍ル故ニ茲ニ任同年九月十七日當中ノ天石ヲ以テ居ヲ作リ江戸ニ迎シ紅葉山ノ神ヲ遷
同十四丁丑年江戸ノ天守ノ石垣ヲ築同年十
月犯ヲ國方ヲ天草ノ切支丹ホ企徒黨ヲ教ヲ
骸原ノ城ニ猶籠上侯板倉内膳正石谷十郎
等儀ホ在ノ面ニ依ホ下知ヲ奥之敢不退伐之
再ヲ上使松平伊豆ホ戸田左門義ヲ丹ヲ西
ホ在ノ之ホ相之正月十日ノ報ヲ給ヲ
同ノ月ノ史同松武府ヲ教同月ノ有ヲ
首陣ヲ舎ヲ甲ホ長與同市正ヲ敢ヲ長崎ニテ

對陣ス二月廿八日落城ノ日忠之本丸ヲ乗取同
十九年丙子二月原城出張ス一揆二千九百三
十ヲ取首同孫ヲ以テ水軍ニ敗ス同十九壬午年
家光公ヨリ吳服番ヲ守備紀ヲ長崎
御番ノ義仰ヲ同ホ上ヲ滿ヲ侯濃ヲ光義ニモ
同ホ御番ヲ仰付ヲ自史ヲ家ニテ陽ヲ年勤之
西海ノ所ホ御番ホ仰ヲ動ヲ業ヲ遂ヲ之
兼ヲ三甲子年二月十二日於福島城卒ス
年五十三法名ヲ樹院殿ヲ大守紀州
傑秀ノ家英大禪門初ヲ松平周防ヲ

甲斐守護せし武田信玄の居城なり
仕方せしに[illegible]の内の子せ[illegible]坪坂十郎[illegible]
内島女[illegible]破ト号ス[illegible]

○光之　母坪坂氏初名樋口右兵衛尉左京
後ニ右馬佐ト改ル寛永五戊辰年
五月十六日辰ノ上刻[illegible]早ク死去
生ス同十二乙亥正月五日於江戸賜[illegible]諱
字ハ松平氏同上　癸未十二月廿六日叙従
四位下兵部少輔ニ甲午年四月家督之節長崎
[illegible]代ハ警衛蒙仰同年十二月云任
侍従室永四丁亥年五月廿[illegible]日於福島[illegible]
去ス八十四歳法名宗真大[illegible]大寺[illegible]列
侍従清山宗真大居士[illegible]原右近
[illegible]

織隆公孝之公長政公三代ノ氏神
勅軍矢頭正一位惣社伊和大明神ハ
播列姫路ノ城中ニ有リ　文政七月十[illegible]

但城中男山女山アワテ女山ヲ本城トス能路ト
名付ケル

○綱之　一万千代丸ヲ兼任ス　乙未年
三月八日出生延宝五年己巳之依
家督居城能州名春雲富山城ヲ
七月六日死去　廿歳

○綱政　初名ハ高知ヲ稱ス　庚午年
寛文十年八月十日ハ江府ヲ出発寛文三癸卯
年之勝ヲ以ト十九日高知ヲ内ハ福ヲ寛ト号ス
綱之嫡子ト十九日四万石ヲ内
家督ヲ仰付長門守ト
称ス
元禄二己巳年
不届ニ付正徳元辛卯年六月十八日
於江戸辛丑年　七十三　宗源院殿四品拾遺呉服ヲ
大守田山紹光大居士能州珠洲郡宝福寺
禅寺ニ葬ル

○吉之　母ハ立花飛騨守娘ニ其ハ本多能登守長孫
女、初名摩耶大陽院ニ天和二壬戌
年六月十五日江戸ニ生ル元禄九丙子年
十一月廿六日従四位下宮内少輔ニ叙従四位下宮内少輔ニ
七月廿六日卒ス二十八
乾光院殿前右衛門督別史範雄道浜大居士ト
号ス

○宣政　初名守山寺之助　初泉寺政則後佐倉
宣政肥前守

○女子　上杉氏ニ嫁吉憲室ニ
岩之助　早世
竹松　早世

○継高　実ハ黒田伊豫守長清長男　母ハ小笠原左京大夫長知女　篠塚中大隅守吉之
女　初名菊千代　長好後宮兵衛尉　飯尾
継高

忠之公吉分
○長真　甲斐又寺
長直　初名千之助後甲斐又寺寛文五年六月
家督弾正
女子　小笠原能登守室
女子　家堂作濃守室
女子　小笠原伯後守室
女子　黒田三左衛門一男室
長範　母ハ右馬佐光之妻　実ハ佐竹義處女
初名千之助後源兵衛

長治　実ハ野村左市兵衛尉祐明ノ舎弟也
長祝依無嗣子及死絶養子ス　初名
辰之助　市之丞修理亮　甲斐守

忠之　実ハ
○忠政　初名宜長　慶長五年五月兵用寛永九年歳ヲ同歳年
此年ニ歳ノ内四方石ヲ下東蓮寺ヲ辰塚トス
寛永三年八月十五日ノ法五位下叙シ東市正
任ス同十五年原城ノ逆治之節忠之長真同
名歳ノ内十六已和年十一月十三日卒
雲心院殿東市令牧峯宗了大禅定門ト号

光之　実ハ
○之勝　初名一力若ニ而ノ内後東市正実ハ忠之ノ子
ニ而歳ヲ嗣ヲ寛永十七庚辰年三月
十五日ノ　上ニ上ニ而歳遠流ス寛文三癸卯ノ年

七月乾清宮殿ニ崩ス　乾清宮殿ニ崩ス大喪

○長寛　蒲田高俊備寛元三癸卯年之勝者トナル

○長清　初名平八郎後伊賀守

一　若年公ノ中ノ実父ニ当ル

○蒲田兵庫政利ニ　初名小十郎後兵庫政利ト称ス後ハ為ニ所属

政成　初名吉之丞後備後守ト称ス初ハ兵庫ニ属ス妻ハ弟兵庫政利ノ妹

女子　野村為吉ノ妻ト為ル

女子　雲山大膳之一妻ト為ル

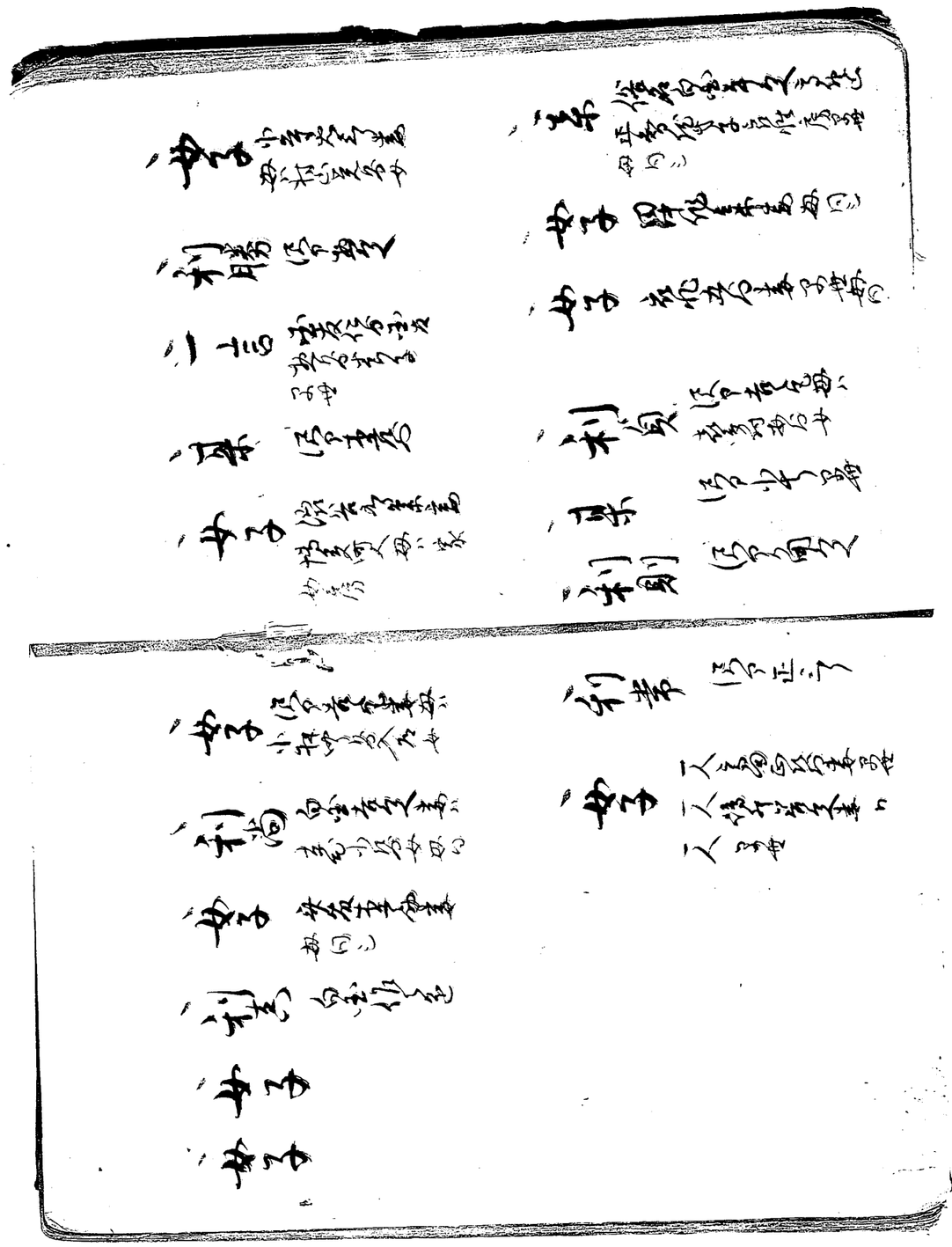
義生　白井八郎ノ妻ト為ル少将ノ乳母

○蒲田兵庫政仲

三郎　少将主ノ妻ト為ル

蒲田吉之丞

女子　蒲田吉之丞ノ妻ト為ル



考ラ公井四ロ先ノ愛敬村民ヒシカラカサ遠ニ

△黒田修理直之　初名是吉　後修理　祝髮号巻長心

秀吉ニ仕ル　妻ハ後左京亮之女

女子　宰府勾当場　妻ハ家女房

某　黒田修理

女子　毛利左近妻　女子　吉田弥兵衛　母同

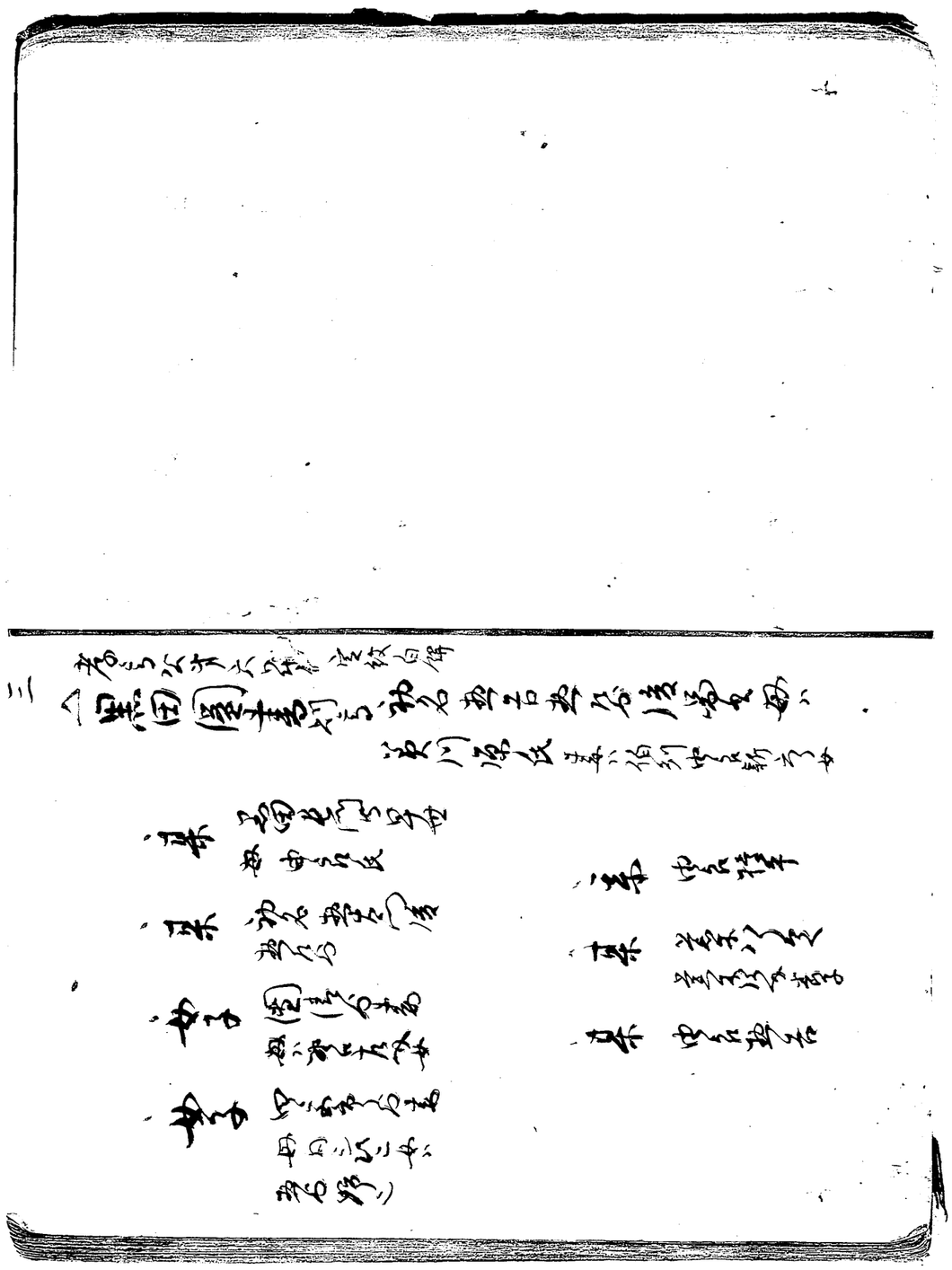
某　黒田市兵衛　女子　水村左兵衛　母同

某　黒田左兵衛　母ハ黒田市兵衛ノ妹　伯尾兵部之女

某　初名高吉後市兵衛　母ハ黒田左兵衛ノ妹

某　黒田修理　母同シ

某　黒田修理　母同シ



井上周防之房

初名為次　為右衛門尉　周防入道ニテ

庭樹院殿　寛永十年十月廿二日卒

天文元年ニ生　天文廿年ニ生

○福井藩士　天文元年ニ生　天文廿年ニ生　勢子無之事

二男　初名為次　為右衛門尉　庭樹院殿　寛永十年十月廿二日卒

天文元年ニ生　天文廿年ニ生　勢子無之事

井上氏ノ人ニ　為次

井上氏ノ人ニ　為次

之房　祖父ノ井上氏ノ名字ヲ名乗ル　法名浄果号ス

井上氏ノ人ニ　為次

井上氏ノ人ニ　為次

井上氏ノ人ニ　為次

栗山備後

知名ハ善四郎ト号ス

寛永八年辛未ノ年八月十四日病死
行年八十三才

天文九年生ル永禄八年利安十歳ニ成リ孝之
モ下ヘ不参ス十七才勅使ヲ奉シテ京ヲ敬ヒ
又同ク参ス勅命ヲ以テ利安ヲ敬ヒ栗栖ノ大名ノ錢ヲ
利安刀ニテ討取同ク年播州英賀ニテ廣ノ名ト

クワリ強ヲ以テ我討取同十二年利安十八才其比
玉堀小軍有シ所ニ利安利敵ノ色栖陰ヲ集ル
一書実ニ多リ之ニ孝之ノ家人
大所行ノトヲ強兵道心深ケレハ利安ト上京
彩ルカトミ教ヘシト命セラル利安結仕シ居タリ
ケルカ何カ所ニ使ニ行ケト宣フ大ヲ仕ラセハ
孝之ノ家伝シ来ル刀ト云ル代ノ太刀
伝シ行ク又号ル為ト有ル様ノ為ナカラ行
タリ度有ルニミスカシ送ニテ授ケニケルカケニ
切為ル切リニウ切ワリ地石有刀ヲ以ルコトケルト

永禄十二年利安ハ歳卯ニテ八十二歳ノ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

陰下ノ者ノ有ル所ノ火ノ上リ威ヲ繰リケリ 義家入出
一方五千石ノ米ヲ以テ左右良ノ城ヲ
長数秘蔵ノ名ヲ付タル 常也ノ子之月ヲ
如火辛ヲ之ノ者 合子曽祖威ノ田ノ利安ノ
長数ノ事ノ礼思ヒ石由 命セラルル長ノ左ノ
里如火ノ寄進ヲ奏清寄ヲス 元和元年
大坂軍忠之ノ所ノ大勢ノ利安ノ
ケルカ兵庫ニテ為城ノ中ノ帰リケリ利安
後迄心ノ定ノ大切ニ思ヒ事ヲ

下馬ニテ礼ノ事ヲ奏ノ者 常ニ俗編也常ニ
然ノ振ノ見ルノ見ルハ呼行基戒メ衣服ノ用ルニ
私製情ノ分有ルノシ又家中ノ法士見ノ
めこちのこちノ求タルハ賞ノ人ノ
ヨトテ二疋ノ用ハセサルハ常ニハセハシク
吾嘗ナル物ヲ見ヘシカ所 竹ノ用ヒ之事ニハ
ナリ金銀ノ少カニ又少所ナル士 江戸ノ俗威カ
又ハ常俗役勤ヲサル者ニハ金銀ノ俗シ後ニ
作ル事ヲ迄ス ノ威者ニハ方ノ為セス
形後ニ為物ノ改ケルニ 義家入玉ノ後家中ノ

借銀百貫目ニ及シト也
妻ハ播州明石宗和姪後妻ニ利家相元法屋家
ヲ府ニ毛利甲斐守娘

定紋汀英幕紋斧歩逸

毛利但馬友信

初名義弟後右馬助本姓ハ源氏父ヲ
毛利但馬ト云祖父ハ播州ノ地主ニ友信ハ弘治
二年丙辰ノ年播州ニ生レ初ヨリ高家ニ仕奉ス
常長政ノ先手ト成其武功筆ニカヽヘカタシ紙
共ニ尽ス実義切厚ナラス其人トナリ剛強ニ
シテ力量タクミニシテ多クシテ勇
猛人ニ優レハ神ヲ尽ス人ハ恐ケルトカヤ
友信カ配ノ人偏ニ秀吉ヲ絶ス守信ハ絶ス
ニ仕ヘ孝ニ〇ハ有ケレハ孝ニ〇トタリ
シテ辞シ行ヒケレハ其ヲ止ス又天正十一年
秀吉ト羽柴勝家ト江州志津山嶽ニテ合戦
有シ時孝ニ長政ニ秀吉ニ後ニテ軍ヲシ
行ヒ友信モ伴シタリシカ能敵ヲ人ヲ長政

取何れも敵を討捕り行ハ長数十丁に及ぶ初陣
中国所々にて働き抽き所を以て秀吉より勲を受
たる条場を今子孫の家柄代々中国の働き信長公
はめでたく秀吉へ仰せ付られ勲をこうむる秀吉
家にてハ今度働き者共切て右の勲功
者ども場り ケり 者ども又ら働ケルハ此第の働
働ども条先年働し程ハ此勲ども数拾度又
へキ抽ナシトテ先ず場こ場り ケり此勲ども
孫抽へ者中国四国ハ征伐者ども先々
ナリシカ又ども条 者ども先発トシテ無こ
名スクナカラス中ニモ九州ニテハ宇佐津ノ城ヲ
攻落シ薩州ニテモ屈強ノ敵ヲ討捕こと数度
抽キ比類ナカリケレハ此今者ども秀吉へ
ヒ給ヒ発陣おカメ先年勇猛ノタメニ者条
抜群ノ後ヲ出陣ノ陣中ニ持シムル者ヲ先ヒ給ヒ
但其外又ハ子孫ニモテ能仕ノ大功多リ抜
群ノ鑓ノ抜十五ヶ所より多ク持シムルヲナカシト定
メ給ヒ抜群ノ後ヲ出陣より おスル事天下
数十年ヲ経ルトハ国者ノ後ヲ行ルより家名者

ナリ迚者ニ長政其後終ニ
以テ家屋ニノ内ニモ有テ右ノ如細ニ
知セ行ハ以例ニヨリテ実以ニ高キ年紀ニ
原ノ山徒猪銃リシ所但ニカヲ左近モ狩獵ノ
鎗ヲ持セ出陣ス
長政城中ヲ表ハシ所ニ者ニ者ハ者ニ者ノ住シテ
肥前ニ行馬カ岳ニヲラス長政長後者ニ者ニ者ノ
城井カ強敵成シ故ニ宮ノ者ニ者大ニ成シテ
曰秋ニ出陣ヲ行ヒ所ニ城井カ拒ナル強敵
ニ有トソ申ケル大田名後屋ニ居給ヒ時

大閤ノ以強ナル長ニ猪獵人有テ道ヲ行所
陰ヲ横ヘ毎度ニ後ヲ付キ通リシニ行逢人
難保シケル者ニ者ニ者ニ者ヲ以テ例ノ猪ノ陰ヲ打
本ニスシテ鉄ヲ先ニシテ直ニ打ヒ通リケレハ
彼猪獵人ヲ恐道ヲヨキテ通シケル先ヨリ
シテ彼猪獵人陰ヲ横タヘ打セス法人ヲ
所ニ事ニ出ニケルト云物語ニテハ者ニ者ニ者又者
宮西ニテ以ニ人ニ者ニ者ニ者ノ先年ニ一日誓リ
ニ勢ケリ者ニ者ハ大ノ男ニテ大力ナリシカ大
另ノ鎗武ニ人ニ寸有シニ然ノ度ノ板形ノ如シ

八人青貝ノ柄ノ七尺立下ル者有ケルヲ持
所ノ敵ニ成ル陰ヲ以テ切ル人ナトヲ突伏
成ル陰ヲ以テ撞スルニ切フセナキ伏シケルカ日本ノ銃
軍ヲ始ケルトキシ銃ハ元来秀吉公日本ニ
二銃機発ニ行成ル撞ヲ左ヲ支正刈クン切ノ
業ニ勝シ陰ハ伏見ニテ左ヲ支ヲ左ヲ支ヲ
打テ通ル者有シカ左ヲ支大ナル鉾ヲ出シ是ニテ
吾ヘシトテ張ラレケレハ左ヲ支ハ敗ケル大
変ヲ何是ニテ吾ヲトテ鉾シケルニ正刈是
ニテ通ル者ハ何ト云ヒ物ヲ引出ハニセント
有シカハ左ヲ支ハ通ル者ハ仮大男ノ陰ヲ以ニ見テケ
レハ敵折ノ下ト思ヒ見テ有ケルシ
見ヤリアノ銃ヲ場ハ以ニ新ニテ吾中ナントヘ
正刈通ル張テ陰ノ物ハ元ナルヲ知ラハ
以陰ヲ以ヘシ其ニテ吾以ヘトヘレシカハ左ヲ支
大変ニテ通ル文吾ニテ陰ヲ取テ帰ケリ
其型ヲ正刈陰ヲ以テ家人ヲ伝
ヘ左ヲ支ニ賜シ中ケル正刈大ニ感物シ其
陰ハ大関ヨリ賜リシ者ニ人ニ与ントテ
左ヲ支ニ伝ヘヲ主其陰ヲ以ヘシト報ニ

[illegible]

[illegible]ニ命シテ長事ナナシム長政又
[illegible]ニ氣シテ[illegible]トシ行フ管領成敗後
[illegible]ヨリ以[illegible]長政トシテ[illegible]
[illegible]ノ内ニ出シニ毛利[illegible]ト
有之シ長政ヘ申[illegible]後毛利[illegible]
[illegible]シケル[illegible]列ヨリ[illegible]後[illegible]所[illegible]
ノ儀[illegible]テカノヘカメシ[illegible]テノ[illegible]
メリ一生ノ内一度モ敵ニ後ヲ見セス一所モ[illegible]
[illegible]ラス人ニ[illegible]ヲ[illegible]
人モ仰セハ[illegible]ス[illegible]功十カ一モ[illegible]ス[illegible]

文保メルカメハシヲ記[illegible]惜ムヘキヲナラスヤ
元和元年乙卯ノ年六月[illegible]病ヲ以テ死ス行年
六十歳[illegible]大隈ノ[illegible]
屠氏麟翁紹仁ト追号ス

長女[illegible]伊東民部[illegible]伊東[illegible]
○[illegible]左近代[illegible]左近[illegible]
[illegible]

（定紋ヲ目結ニ紋ナシ）

△後宏文長清長次ハ初名ハ八郎又宗清人ト云ヘ
陽ノ先ス父ヲ新名トスヘハ東播ヲ名ハ
氏ハ家長ニ後ニ少弐頼誠ノ所ニ来テ有シカ
庇ヲセリ宗清又宗忠ノ初カリシヲ孝ヲ表
テ長ヲ育ニ行フ成人ノ後伯父宏ヲ
九郎ト云者ヲ孝ヲ者ニ対シ道ノ志有レハ
長ヲ出家シ行フ又宗ヲ一族ヲ儀
ヲ近仕名越ノ許ニ行テ居メリシヲ後ニ
長政伴也シ行フ孝ヲ長政ニ向テ深敬人ノ
一族ヲ少シハ侍ヲ近リ名仕ヲ用ノ中伴ヲ

長政ヨリ西ヲ出ヲ行テ新ノ西石場シカ
長政ノ所ニ行ヲ後ニハ家老トヒトシクヲ
仕孝ヲ長政ニ従ヒテ所々ノ戦武勇ヲ人ニ
勝シメリ初部陣ノ事無ヲ宗長ヲ
又宗ヲ入ニテ一日代リ先陣ヲ勤殿中晋別
城先登ヲ仕ケルヲ加藤清正ト行ニ又高武ヲ
フリシ威シ行フトシ又蔚山ニテ長政ト大勝ト組シ
明日敵陣ヘ無シト定メ明ル又宗ヲ知ルトシテ
敵陣近クニ宗ヲ又宗ヲ川ヲ渡リテ敵陣ノ兵ヲ
ヒ行ントセシカ川ヨリ日本ノ方ノ出流ヒトハ

先ヲ敵陣ノ方ヘ和見ニ行ニ不及早ク引ベシテ
長敵ニ告テ云リ味方ノ大勢已ニ川ヲ越行ツ人有
いな敵陣ヲ正リ来ラ及陣ノメリ急テ所ニ行ヘト
進メ申ト也又和部ニテ先敵ノ先ヲ山ノハナシヲ見リ
テ通リメル所ニ有テ敵ト戦ニ間ヲ数ニアクルヲ
又条ヲ求メテ味方ノ所ヲ見ルヲ先敵行シカ
是ヲ知ト宜ニテ山ハ四方ノ間次第ニ近ツヲヘシ
負テ引トヤトムトソヤケル若ノ如リ去ニ不逢トシ
又敵陣見ヘル所武者ホコリ立テ見エル又条
是ヲ見テ敵ハ引トリヘメリイカントナシハ武
者ホコリ白ミテ見エムト敵ノ武者ホコリハ付方ヘ

カヘリテ思シ引敵ノ武者ホコリハ先ヘカリ白シ
為トコキトニ依テ見ル白ノ久ク苦ルナリトエリ
其機轉ノ坊ナル事ヲ思ヒ其ヲ五年実
ケ原戦ノ時ニ高ニ家ト同長敵ノ先ヲ勢合
川先陣ヲ自我名ヲ名ル是我ニ名ヲ
ち人ニ知セントノ志ヤ其屋宿ホ勢ト戦テ移
岩淵カラス又条ヲ婦子ハ如水ニ従ニ其屋
陣ニ移ヲ月ヲ是ニテ働ニ小雲ヲ
云ニ云ハシテ如水ノ感ハ円ヲ長敵
者国ヲ詳領シ入ヲノ後一万六千石賜リ大屋

城郭ノ頽ニ有シ頃行ノ長房又系大隈ノ城ニ
居ナカラ伊予ヘ方々書ヲ送リ交リヲ
結ビ不日中ニ敵ヲ行ニ以後ケレバ
ナル中務ノ命ヲ以テ行ニ長房又云ヲ中迫
中ニ敵ヲ行ニケレハ長ノ滅ナルシ生ニ
ケン其長十二年義ヲシテ迫ニ長ノ輝政
元ヨリ敵ニ通ジタリシ故ニ方ヘ行テ居メリシカハ
一ヲ年ハイツクニ有ニ刻レス後ニ池田輝政又系
シ相ヲシモ行ヲ中ニ敵ヲ行ニ村郷義物長
兵庫ヲ以又吉林伯相持ヲ敵ニ後ヘト再ニ告ヤリ

行ケレハ後ニ因ナカリケレハ敵ト輝政中悪
成ル事ニ書ヲナカリケリ其ヲ中ニ
家康ニ出ル後ノ的又村郷義物ヲ輝政ヘ又系
敵迫ノ方ヲシ告ケレハ後ノ輝政ヘ又系
後ニ於播列ニ居住スル中長政ヲ敵ニ
於年戦ヲ方ヲシ和ト行ニケレハ後ニ播列ヲ
迫敵セラル事ヲ十九年ノ冬ニ義ヲ行
人ヲ抱行ヲ的大坂ノ城ニ籠リ元和元年
ニテ義ヲ逆ノ的ニ成ニテノ的ヲ攻リ働シカ
五月ニ入リ今敵ニ伊達浅野正家ノ伯ヨリ

●正宗屋敷今ハ小丁ヨリ北ノ方ニ手数地四百坪ニ成リ 永禄年間ニ北条氏康ノ家人ナリシ

於多鏡ニアメリテ死ス年四十六

平生戦功多シトイヘドモ心術正シカラス戦場ニテモ

ハツシテ人ニ秘シテ人ニ秘シタル故ニ真

男名ハ高シトイヘドモ天命ニソムキ終ニハ敵ニ

クミシテ終ニ人ノ成トスヘキヲ是人ノ成トスヘキヲ

ニソ侍ル

義 横列中村長三郎 後年小河藩ノ士

其後毒殺ス 中村長三郎 秀彩々四乳人賞ス

八

八 黒田義作一成

本姓ハ加茂ヲ初名ヲ玉松清系

定紋桜カヨ 郡郡代後高人ハ主ヲ用

年ヲシテ三左ヲ義作ニテ京作改陸居シ利

繁シテ勝蔵ト号ス父ハ加茂又左衛門ハ大阪

英雄名ノ士後ニ考ヘ此ノ七ヶ月ヲ以テ死ス馬

カ嫌ヒ元亀三年三月ニ生ル也日ヲ以名キコト

三ヶ月父又左衛門ハ横列伊丹ヲ攻一族ナリ

伝ヘ公ヨリ義本横伝伊丹市ニ接ケ市ニ場

リシカ玉市ノ話ヲ義ヲ長ヲ長ヲ

同ノ義本ヲ旗下ニ長ヲ天正六年義本

陳死ノ中ヘ有名ニ少ラ敗滅日ヲ義本ヘ

[illegible]ノ[illegible]ニ考ヘラルヽ様列有[illegible]ノ城ニ巻シテ[illegible]
処ニ[illegible]不同ヲセス考ヘラルヽ[illegible]テ禁獄シ遂ヲ
又[illegible]考ヘラル遂[illegible]ノ[illegible]カ[illegible]又[illegible]
考ヘラル又[illegible]ニ作ケル[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]志謝シタメ
シテ[illegible]ハ[illegible]カ子一人[illegible]ニ[illegible]六月スヘシ
ト[illegible]シ[illegible]ト[illegible]有[illegible]城ノ[illegible]玉杵[illegible]ニテ
考ヘラル[illegible]ケレハ[illegible]ノ処ヲ[illegible]リ[illegible]
ニ遇セシル天正十二年玉杵ナル[illegible]ノ[illegible]
シテ泉列岸ノ和田陣ニ[illegible]リ[illegible]初陣ナリ
同十三年十月[illegible]ニテ考ヘラレニ[illegible]陣ニ[illegible]
同十五年十七年[illegible]龍造陣ニ向ヒ日向出[illegible]

川ニテ強敵二人討取ラル名ヲ[illegible]ス同年ノ冬[illegible]
考ヘラル[illegible]所々ニテ一揆ヲ起セシカ長政ニ従フ
[illegible]有リ就中城井八郎ニテ長政ノ命ニ
代ントテ[illegible]ケル志ヲ人皆感シケリ文
禄元年三月廿二日[illegible]長政ノ供ニテ
従[illegible]名有中ニテ金[illegible]ノ城攻ノ
一番ニ城ニ入リ[illegible]ノ大軍ヲ不怨
ニ左衛門一人敵ニ向メリシカ法[illegible]ニ大
敵ヲ追崩シ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]昌原ノ
城攻[illegible]ノ戦[illegible]川ノ軍[illegible]門ノ
戦白川ノ[illegible]城攻メ梁山石城之

仍人金殿送ニテ軍西生浦ノ軍等度々勇名ヲ顕セリ然ニ秀吉伐ハラス其長五年ニ左馬ニ十歳英法名
合海川ノ先陳シテ早ク主君ノ名ヲ名乗又
同日川向ヨリ陣ノ毛利ヲシテ高敷ヲ討獲ス敵村山契
トヲ号ス高浜ヤカ伊丹ニ於ト我シ安宅作馬ト云敵ヲモ
敗ケリ
突伐ニ高ク敵人討捕ケリ又安宅ニ於テ家人ト
共ニ後ニ来陣ニ赴ケル中ニ江見長兵衛
我ニ来関助ニ追及カ者ナトヲ者勝シテ働キ
共威ヲ揚ケリ左馬一生ノ日本ノ軍ニ
度々我功多シ然ニ大坂功ニ不コラス又ハ
生功ヲ問トイヘ共答ス又物語ノ次テニ心為キ
其内ノ沙汰ヲ問ヘハ其我功ヲ語ルトイヘ共又
公者家キ多ク覚スシテ詳ナラス伊ハラス
但馬道伯ト唐名ノ高ノ家ニ人ミキ法功
長老死シテ後ハ口シ後テ我我功ノ多シ
沈ス其級ハ其内ノ事シ知ル者ナシハ絶
故ニナキ名ヲ伝テ法ルカト人ニ疑レシ
情ナリ如ノ長ク人ニ及其力者人ニ傷レタリ

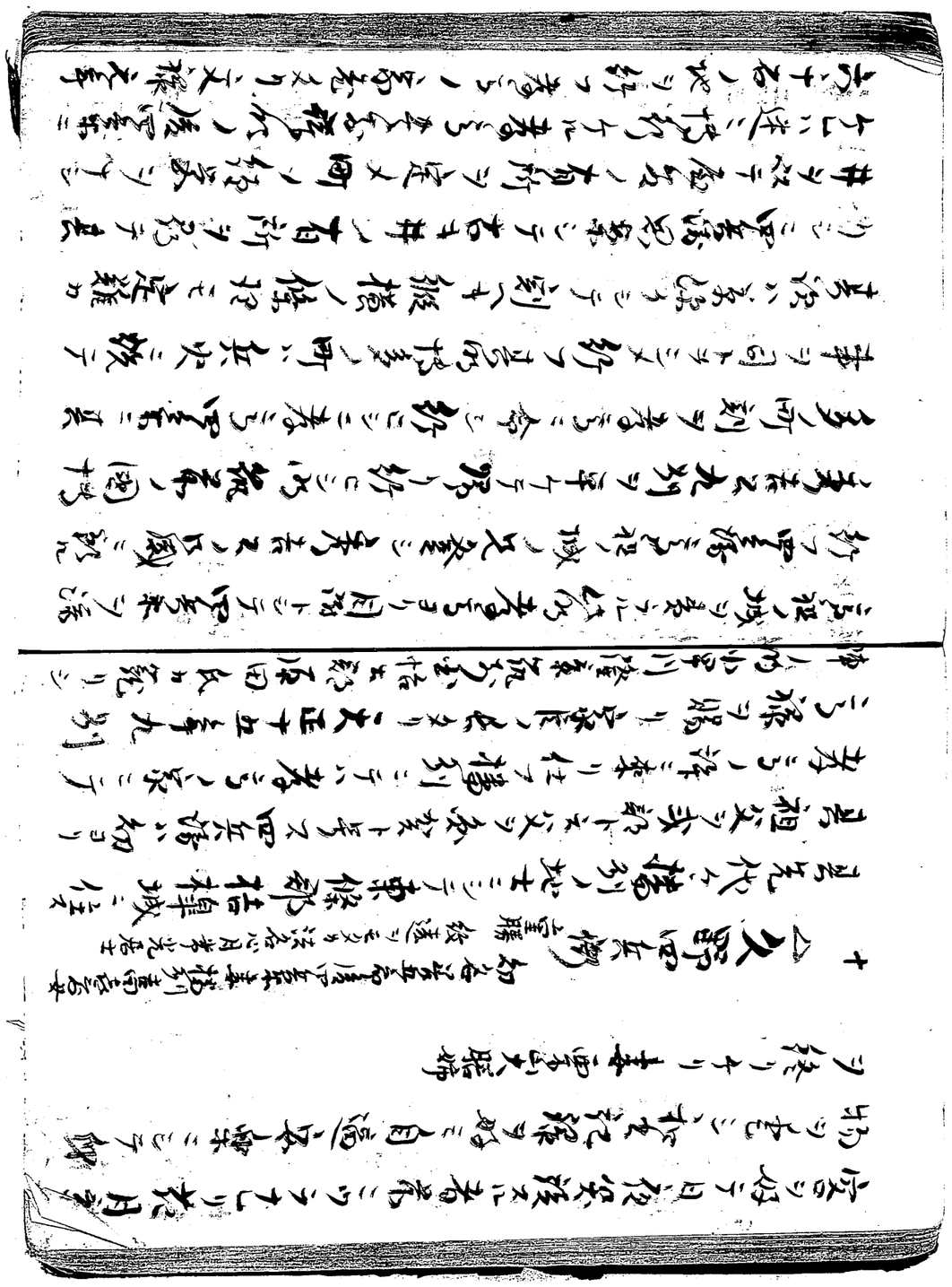
豊前玉城井中務少輔殿ノ股ライリンヲ引サノ
弱ノ大力ナリシカ長持ヲ取出行ト時
ノ城ニ有シヲ引者又ミナカリシカ三左衛門ハ長
ニテ巻藁ヲ射タリシトシ三左衛門物語ニ城ニ
来ル時ハ石垣ナトニ漆塗メルカヨシタトニ大勢有
カルトイヘトモ語ニ論ルモノシ左ナキ時ハ心サラス押
左ニアル、ヲ有モノシトヨリ又三左衛物語ニ
小仰ノ士ハ自仰ノ働シ先トスルナレハ甲冑法度
クニ玉近手強シテ各事力ヲ尽シテ制
スヘシ四月ハ小左物ヨシ但法士ハ対リシルシヲ用ヒハ
強テ左物ナトハ好ス其大型ハ軽ノ短カヨシ少ミテモ
力ヲ尽ヨリ重キハ仰ノ働成難シ二ツ取ニモ行
事ナラス心サラス陸ヲ取ヲ取ヲリ先ヲリシテハ左
人ハノ者ノ多シ小仰ノ士道具ヲシバク表
制スル者ハ唯人ノ見カケカサリ計ニテ武勇ニ
志ナキ者ト云ヘシ必ス制ナル者ハ人ニ不足ヲ見ハヤ
人ニ見アナトラル、和セトヤリ又外物ニテ紛
三度ノ事有ヲ陸又ヲ不三人一所ニ有シカ
命ニ江南人一人ヲ以ヲ以手ハサミテ長刀ヲ
右ノ三人共ヲ同カケテ討取ント争ヒテ怪石

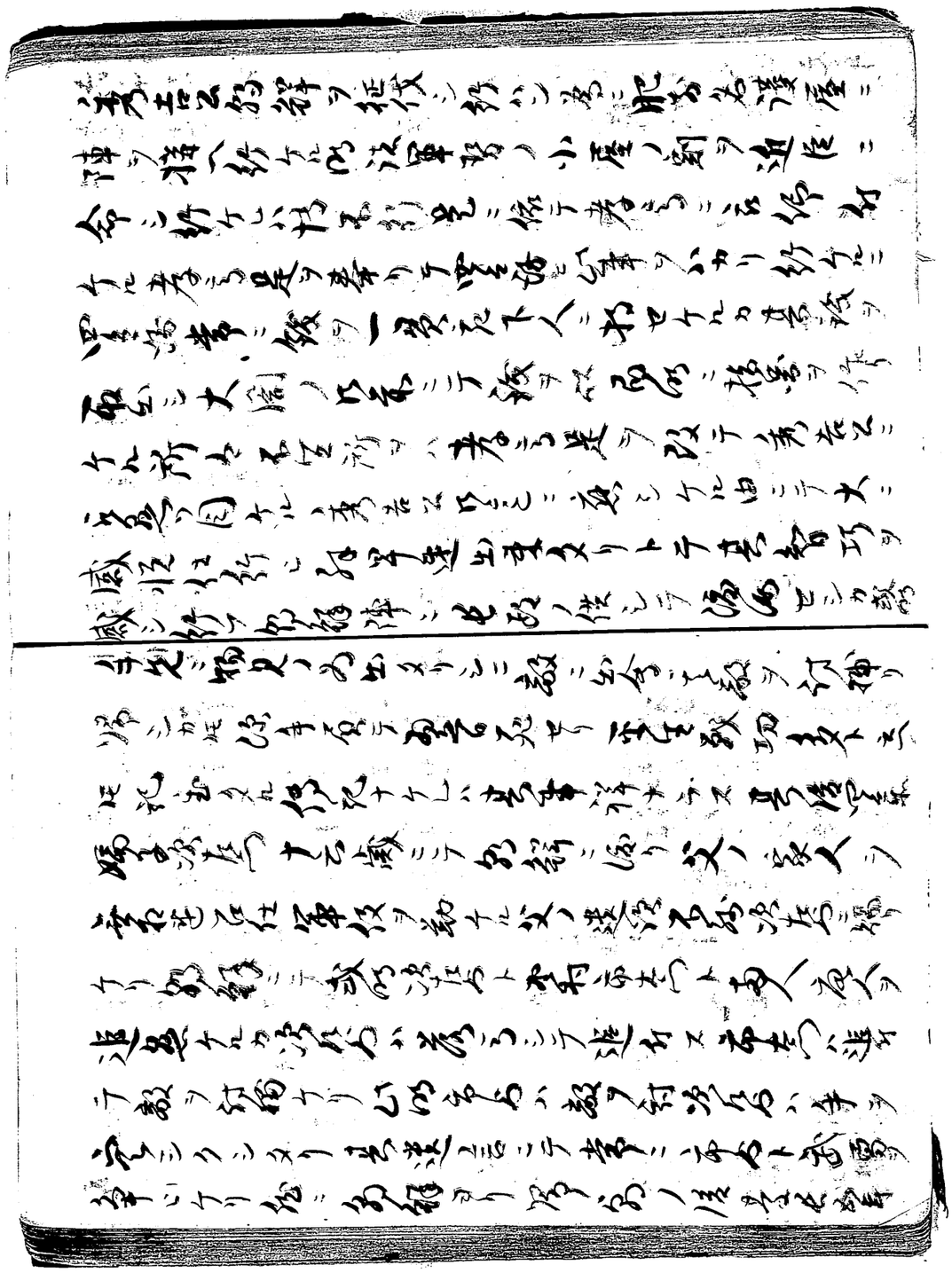
又ニ雷一書ニ云フ常高ケルヲ江南人ノ敵ヲ
矢又ニ雷カ小脇ニ当リテウラヨリカキケレハ高ノ
敵ヲ討ラヽ成カメフシテ止ヌ二書ニ市右近ノ
家ヲ友人矢ヲ敵ヲ射迫ツリ出敵ケル矢ニ
当リテ見ニ偏ヲ伝ヘスニ書ニ市右近ヲ友人ノ
倍ニ家カケ刀ヲ抜テ抜ケル友人見ツケテ
矢ヲ敵ケルニ市右ノ手ノ内ノ臂ヨリ抜ノ
時ニ射付ケレハ刀ヲハ忽取為シヌ其ノ
其敵ト組テ終ニ討為ケル友人ハ二ツノ矢
ヲ以テ人ヲ射メリシハ抜ヲ手ニ為ケルヘシ以ハ

一住ノ内ヲ手ヲ負スル所ニ見ル所ノ者有ケル元和
元年大坂冬陣ノ時英作四十五歳　忠之ノ供ニテ
上リケルカ兵庫ニテ大坂落城ヲ聞ニ寛永十四
年冬肥前島原ノ凶徒蜂起スルヲ忠之ハ江戸
居行ツ福島ニ有シ士ハ正月島原ニ赴ク英作六十八
歳正月十七日福島出陣シ島原ニ至ル是ヨリ先江
戸ヨリ為軍奉行宮崎伊左衛門松平伊豆守　公命シ
文ヲ下ス向シ行ケルカ英作カ来ルヲ待テ軍
事ヲ議セン為メニ招ケルニ英作モ命シ下ヲ任ス
人ヲ除ヘハ行ス先城下ヲ四リテ能ク其境地ヲ

文年号後伊豆守殿処へ行早ク命ニ応シテ来ル
作ヘハ城下ニ入テ来ル内ニ作ヘハ若是ニ
シテ下ニト存ニテ三ヶ月ノ形勢ヲ不知作テハ行ヲ
モ二申ニ拵ヒナリ作故之刻日ヨリ城下所ニ打出リ一見
仕ルテ来ル由申ケル伊豆守是ヲ聞テ大ニ感
サスカ老功ノ者ナル由シ称賞シ行ナル伊豆守城ヲ
来シ変ヲ後シ其ヲ作ノ而行ノ美作者ヲ曰ハ
今城ニ来ル不ル此ノ城シカ表ニ仕給ハヽ而ハ二家ノ
作ヘシ但敵ノ玉薬ハ有ル味方ノ兵多ク討
ル能ヘシ思取巻テ合表ニ成玉薬ヲ使ニ打尽ル

サセ合ツキテツカレ人ハ帰ル其ハ敵ハ取ル拾ケレハ
申セハ敵ニ恐テ申トヤ思ヒ合ン我多ハ引ヨリ敵ニ
向テ能シタル事ハ世ノ人ハ只使ノ人数ハ引ヲ
不ル能存ニテ申ケレハ伊豆守モ諸大ハ
後ヒト同シ行ノ明暦二年十一月二日病有テ
福井ノ城下ニテ卒ス行年八十六歳其人トナリ
寛裕ニシテセヽラス威福ヲカンヒテヽニセヽ坐シテ
是事ナシハ客ニ対シテ好ンテ子ナル其姓ノ祖ナル
事ヲ知其歳ニノミ敵ニ対スルニ及テハ従容ト
シテ不動恰平日ノ如シ隠居スルヲ十余





九月也水ニ從ヒ奏ニ居ニ赴大友義統ノ軍勢ト
戰シカ市右ニ打トラシト強ク勵ミ戰テ終ニ討死
セリ行年十九歳トソ雪ヘシ公ノ次男カ家人光吉
左右庶ノ子ノ山ヶ傷疵稙田次郎左衛門作左衛門
久保庄助等モ命トシ強ンシ義ヲ重ンシテ主
人ノ前後左右ニテ討死ス次左衛門ハ毋里左兵衛カ
舎弟ナリシカ未タ子ナカリケレハ討死セシ後家
跡ヲ全ウ其子二右衛門ニ繼リケリ二右衛
門ニ高ヲ又改テ外記トモ刑部シテト真
ト称スモ刀ツカニ上手ノ名ヲ得タリ

十一　八野村左市兵衛傳

野村左市兵衛祐勝ハ毋里但馬カ甥ニシテ本姓ハ芳賀
野村ハ播列野村ノ名ヲ賀古郡ニ有是ヲ用テ氏トス
左市兵衛初ヨリ黒田家ニ來リ仕ヘ播列所々ノ小城
ニテ度々手柄有リ文正ノ二年ノ著紀列根來
雑賀ノ法師等兵ヲ起シ大坂ヘ打出ントス高安
長柄トシテ和泉國岸和田ノ城ニ中村或紀少將ヲシ
テ玉黒田吉兵衛ヲ政勝及賀家政右衛門下野守
左近生駒雅楽ヲ以黒田長政ヲ添番トシテ送ラレ
ニ月ニ日根來雑賀ノ凶徒等舟ト陸トニ手ニ分

来リ一手ハ舟ニテ堺表ヘ働キ一手ハ大野岸和田ニ
向フケリ長政勇ミ進ンテ攻戰ヒ高名ヲ表ス敵
二人自伐伐其外悉ク切崩シ敵ヲタヽク討捕ル所
敵モ退散シケレハ仰方ノ勢モ引取ケリ家ニ帰来
ノ者共ハ手負テ引退シヲ口惜ク思ヒケン少計勢テ
味方ノ後ヲシメントテ其勢七百計又追シ来リケリ
為方ノ兵ハステニ引取ケレハ是ヲ防ヘキ勢モ無
ケレ所ニ其勢共ニ一人後ニ残リシカ敵ノ再追シ
来ルヲ見テ惜ノ有ケル上ニ然ト上リケレハ彼多ク
敵留メントヤ思ヒケン又引返ケレ共ニ敵ニ詰
ラレ終ニ其勢出ルヲ待ケル時ニ後ニ
変セスシテ為人ニ伏居メリシカ暫有テ又戰ケレ共ニ
家ニ戰草外勝負ヲシテ止又家ニ明石左近カ家人ニ
明石左近命トヲ者是ヲ見テ無来リ敵ヲ来ル後
打シ敵ノ伏ニ居メルヲ知テ伏首ヲ捕ケル長政後ニ
人伏ヲ知ル所ニ其家カ後ニ人留リテ大勢ノ敵シ
追メリシ功ヲ誉ル所ニ天正四年春ニ従ニ筑紫ニ
下リケルカ十月七日豊前国築城郡宇留津城ヲ
攻ケル所ニ其城ノ者共ニ降ヲ攻終ニ落城
ヲ其ニ城ノ人ニ為ル者ハ切捨シテ上リ同十五年ノ
月十日毛利薩摩ノ軍勢ト日向ニ一年間ニテ戰ケル

四方ヲ警護人ニ見セテ二十人計シ引タヽシ一人ニ敷サス川端ヲ
小ヒキヲ攜ニシテ後先ヲ切ル五年ニノセ自分ハ鎗ヲ杖ニ
ツキトカシテ手拍セケル其傷部ニ新メリトカヤ同年ノ
冬ヽ長政考ヘノ遊徒ヲ退治シ終ヲ所々ニテ手
柄アシケリ同年ノ春中津川ノ城ニ城井中務カ
推参セシ時長政考ヘ命シテ是ヲ切セラル考ヘ家
臣ナリ是ヲ切外ケリ考ヘ家カ婚姻ヲ切ル
從ニ新羅ニ向リ所々ニテ高名ス考ヘ長政ニ
二月十四考ヘ中津川城下ニテ病死ス行年二十八
家也考ヘ家カ子市考ヘ祐重ハ天正九年播州姫路ニ
生ル祖父ニ考ヘテ名ヲ大学ト改又後ニ集人ト号ス考ヘ

二年長政再ビ朝鮮ニ渡海ラレ以前市右十七歳姫路
ヨリ朝鮮ニ赴キ所々ノ戦ニ毫功ノ者ニテ名手柄シ
ケルヤニテ市右ハ手負五ヶ所ニテ山ノ尾侍ニ有レ
敵ニ打勝ニナリ突テ無リ止肩ニ又次ノ傷ニ切テ無
シハ是ニ難ナク進退スル市右ニ敵ヲ進無行所ニ敵
ノ二人高傷ノ中ヨリ大ノ男白磨ノ槍ヲ出シ七八寸計ナル
鞘ノ上ニ金テ敵市右ニ見テ独合槍シ
取ヒシ突所ヲ ナキリキトシテ後ニ槍ヲ付メルトテ
鎗ヲ敵ニハリ除ツト突テ市右カ左ノ腰ヲ刺シタメハ
カニウツ ヤシテ引ヨリ落ケレハ敵人ヨリ見テ下リ

市左ヱ門ヨリ取テ押ヘ先市左ヱ門カ刀ヲ取レシ市左ヱ門カ刀ヲ取テ庵人ノ勝ニ和ス我服其ヲ授テ窪ノ家格ノハツレシ二刀ヲシテ居ヘヨシ迎シ首ヲ打カキシカ気力屈テ身シツキ居メリ京徒等先ヲ見付テ走寄引立ケレ痛手負メルカ為ニ家僕ス潔ヶシワレテ陣屋ヘ帰リケリ後ニ長政ノ紋ニ義光ニハ此類ナキ勇士也父ニ似メリトテ勝ノ刀ヲ賜リケリ市左ヱ門ハ公家ノ家ノ一生足不付シテ拐脚トナリ初軍ノ内家ニテ七歩蹉シ称号シ奉リケリ慶長五年ノ秋出陣ス石垣原ニテ大友義統ノ先手吉弘加兵衛統幸ト如ノ

先鋒井上九郎右衛門政秋ト中村勝員ヒ足ヘ打リシニ左ノ方ヨリ市左ヱ門手負引連寄無リテ進出シ統ニ討掛ケリ此時市左ヱ門カ手ニ討取首八十八内曽付五十八也家人ノ中ニ大塩与兵衛紫金長兵衛源平ハ次郎兵衛ハ林四郎兵衛ナトヽ者郎ニ授テ傷ケレハ如水感ヲ結リ恩賞ヲ施サル角テ市左ハ筑前入国ノ後長政ヨリ米代ニ十石ヲ与ヘ終ニ寛永八年八月四日家ヲ新田邑ニテ殁ス行年五十九

武事所 野村左ヱ門祐益左ヱ門佐下ニテ二十八歳元
国老ノ系祐勝 初名小辰 市左ヱ門 集八 集八後名又兵衛

黒田六郎左衛門伝

黒田氏ノ系統種ハ本姓ハ中間ニ世執名ヲ次郎ト称ス
山城守ト云ヒ後ニ忍一ノ丞ト号ス豊臣下ニ属シ山崎ニ
領シ一戸ノ城主タリ孝高ヨリ豊臣ノ勝リテ入国シ行ヒシ
初当道ハサリシカ孝高ヨリ内ニ有テ早ク降系ス
勉シテ城中黒田中ニ出シ人ハ老ヲ山中ニテ鼎ノ三足
ノ如ク城ノ様ヘ引義テ居ケル故付セ張敬世紀ニ
山田大膳ハ氏ノ系カ従兄弟ニ故孝高ヨリ氏ノ
山田ヲスカシ教スヘシト命セラレシカハ氏ノ系彼ノ系
内ハ系メリ山田モ氏ノ系ヲ出ス仕ケル処ヲ孝高
ノ人数ヲ引入密ノ山田ヲ亡シケリ孝高ヨリ功ヲ
賞シテ黒田ノ姓ヲ賜リケリ名称詳陣所長政ニ従ヒ
テ所々ノ戦場ニテ名ヲ仕メリケリ其ヲ五年
如水九州ヲ平ケ給フ所々ニテ軍功有シトカヤ
筑前ニ移リ行ヒテ上座郡小石原ニ新城ヲ建ヘ給ヒ
領ス六万四千石ノ内ニ七百石ノ地ヲ与ヘ行フ賞小二年
七十人余家来ニテ病死ス其子孫ヲ家来ヲ黒田氏ト名ヲ

後メ父ノ源ヲ逐カシメルカ西本山大膳カ奏ナリシ故大猛
流刑ノ後ヲ去テ黒田家ヲ去退仕ヲ求ス
（安藤本左板ハ記ニ云ク下川方名ハ[illegible]未詳
○中ノ手孫太郎氏ニ在ル動作ハ田友板後ノ[illegible]）

十四

世臣和泉傳

寛和泉正利初名孫次後ニ六之助ト改暦年和泉ト
号ス父ヲ七郎ト云ハ制警シテ一箭ト称ス其先祖代々
播列ノ地士ヲ七郎ト云ハ初ハ其家富ナリシカ後ニ盛勢
衰ヘ家ヲ敵ニ大集ル、故ニ嫡子孫次ヲ考ラシテ郎ケシ為ハ
播列ニ住セシカ初終陳ノ為ニ引倍シテ考ラシテ
長政ニ仕ヲ初終軍ニ赴キ所ノ戦ニ軍功有リ家長
九年ヲ経テ陣ノ内ニ武功有後ニ考ラ後ニ日田郡隈ノ城
ヲ賞ス四万石ヲ計略ヲ以テ取ル七郎ヲ城番
メラシム長政薨ス入国ノ後十三百石ノ地ヲ七郎ニ
与ヘ終ヲ元和元年三月二日歿ス家地ヲハ次子庄左衛門
正因ニ終ヲ六之助ハ永孫十六年九月十四日ノ内ノ戦ニ播
列摂東郡越後ノ邑ニ生ル渤ノ長シテ考ラ洋
来リ仕ヲ天正十年江列ニテ柴田合戦ノ時ニ
十七ヲ初陣ナリシカ能ク二人討捕ラレシヲ敵ヲ考ラ
高感シ終ヲ内十二年岸和田ノ戦ノ時ニ長政ニ従
終ヲ之月九日朝食ヲ考ノ戦ニ人力捕ラレシ

ケリ同十五年四月日向国川ノ瀬ニテ手柄有ル
味方ノ面々前ニ進ミ敵ヲ追撃シ引取ケルカ敵ヲカヘリ
見メリケレハ敵ノ足軽ノ引ツクシタル者ト見ヘ後殿シ
有ニ負テ引退クヲ味方ノ侍士ニ敵又打テ出メリ
トテ我モ我モト勇ミ進ンテ無ントシメリケリ六人
是ヲ見テ見ハ味方ソトシテ静メケルニ静リヌカノ
敵モ長追ノ方シ出ス成ニケリ後ニ侍士六人ノ物ニ向テ
彼者ヲ討セラシヌ事其方カ故也遺恨ナル事トテ
セメキケレハ六人ノ物ヲケルハ也彼敵ヲ討ンコソヨカレヘケ
レ共足軽コトキノ雑兵一人討タレハトテ敵ノヨハミニモ
成味方ノ強ミニモ如何ニ雑シ若又彼者ヲ討ントテ数人ノ
尚ヒタスハ彼者モ行シニ後殿一敵ニ成テハ有ヘキ左有ハ雑
兵一人討ントテ味方ノ屈ヲシ討セタランハ何程ノ損ニテ
有ヘキヤ比ノ有シ故ニコソ敵トハ知ナカラ殺シテ通シツ
レトモタリケレハ島田玉松ヲ初メ其外味方ノ侍士ニ路ヲ
コソ感シケレ同年城井ヲ攻行ケル強人ニ備シ忠ノ
有ヒ物尚ノ褒美トシテ長政手ツカラ兵宗ノ脇
指ヲ与ヘ此ニ六人行ヲ又孫元寿郎軍ノ物モ
足軽二十人ヲ引具シモ政ノ先手ヲ勤ム勇ノ誉ニテ
何ノ戦ニテカ有ケン六之物カ軍功ヲ賞シテ長政自ラ
扶行ヲ再度ヲ賜リケリ又何ノ所ニカ有ケン勇ノ誉
人ノ為ハト長政ヲ行ヒ六之物ト又一人ノ生涯ヲ

石ヲ曉野ニ伏兵ヲ撰ヘテ是ヲ待シムカリシ所ニ敵大勢ト
又人クル者物見ノ為ニヤ有ケン法華ヲハ法ニ立ロ二人
馬ニ乗テ来リシソカニ体方ノ軍立ノ作シ何ニケリ
ヒ者ノ是ヲ見テ急ニ一人ノ弱ク成ヲ切伏首ヲ
取ケルハ其間ノ下ニ一紙ノ古有ケリ取テ見ル
ニ入ケルニ敵兵ノ矢数ヲ記シ置ス事ト云メル也
皆ナリケルハ長政斜ナラス悦ケレテ味方ノ法手ニ
事ヲ告知ラセ終フ云ヒ初カ人ヲ白ノ働ハ敵百騎河ヲ
山ヨリモ傷クルヲ也トテ射ル威シ終シト也文孫
三年三月十三日横張ニテ伯父ヲ焼物ヲ改シ終シ内
ヒ之初刀ヲ以敵ヲ切伏ケル其日御方ノ吉次カ作ニテ
長二尺三寸一ヒ有ケリ

其刀ヲ南山ト名付給シ也テ敵ニ文集ニ人ヲ
第長二年再勢ヲ率ニ越ル九月七日ノ合戦ニ張ヲ
働シカ江南人ノ射ケル矢ニテ頬先ヲ射ラレケル矢ハ
行ヒ上ナカリシカ源平ニ毎ニ出ケルニ入ケルニヤ後ニハ右ノ口
アカリナリ常ニ膿血出テ止ス此ヲ思顔ヲモシソロシ
ク見ニククリシトカヤ凡テ勢ヲ多ノ敵ニ長切スク
ナカラス然ルニ其事ニ美伝ハテ九ハ祥ニ和カメシ事
長五年濃州人宗義ノ所長源五十人ヲ引具シ合
流川ニテ働有又流ヲ中御ヘ雲切ヲ進ケル俣勢
雲ケ原ニテハ西カ先手ヲ待左近カ張兵ヲ近前シ

其切腹ス城トカヤ就テ入国ノ後怡土郡ニテ二千石ノ
地ヲ与ヘ十六人ノ与力ヲ付シ高祖山ノ古城ノ北部民
村ト云所ニ新ニ属従セシムシメラル世上若干ヲ有ハ
彼古城ヲ取立テ此ノ押トセントノ意ナリトナン正利ハ
武勇ノミニカキラズ智恵モ人ニ勝メリシカハ長政度ハ
家老ニモセハヤト思ヒ大樹ノ陰ニモ家老ナミニ居ル
見ヘヲ設ケセ行シカハ彼頻ニ之ノ疵ヲ癒ヤシクオリ
ヲモ尺表シカリシカハ其年止ヌサレハ国元ニテハ家
老ナミニ従ヒヲ新ヒ又長政ヨリ行ル主松モ家老ト
同ク主書セラル元和七年九月ニ家督相続ス

中後ニ譲テ隠居スル迄ハ長政郷学ヲカヲオシミ家督
ヲ譲ル事ヲハ勢シ行ハレ是退去シ免シ行ハス同年
十月ニ筑前国ニ千五百石ノ地ヲ与ヘテ隠居領トシテ
福岡ノ城南丸ニ移テ城番タラシム元和九年八月
ヤウ長政卒シ行フ正利哀慟ノアマリ薙髪シテ
松隠宗泉ト号ス寛永六年六月廿九日病ニテ
家ニ歿ス行年五十九歳 妻播列手塚孫左衛門娘
定紋桐ノ花

十五

△野口佐助傳

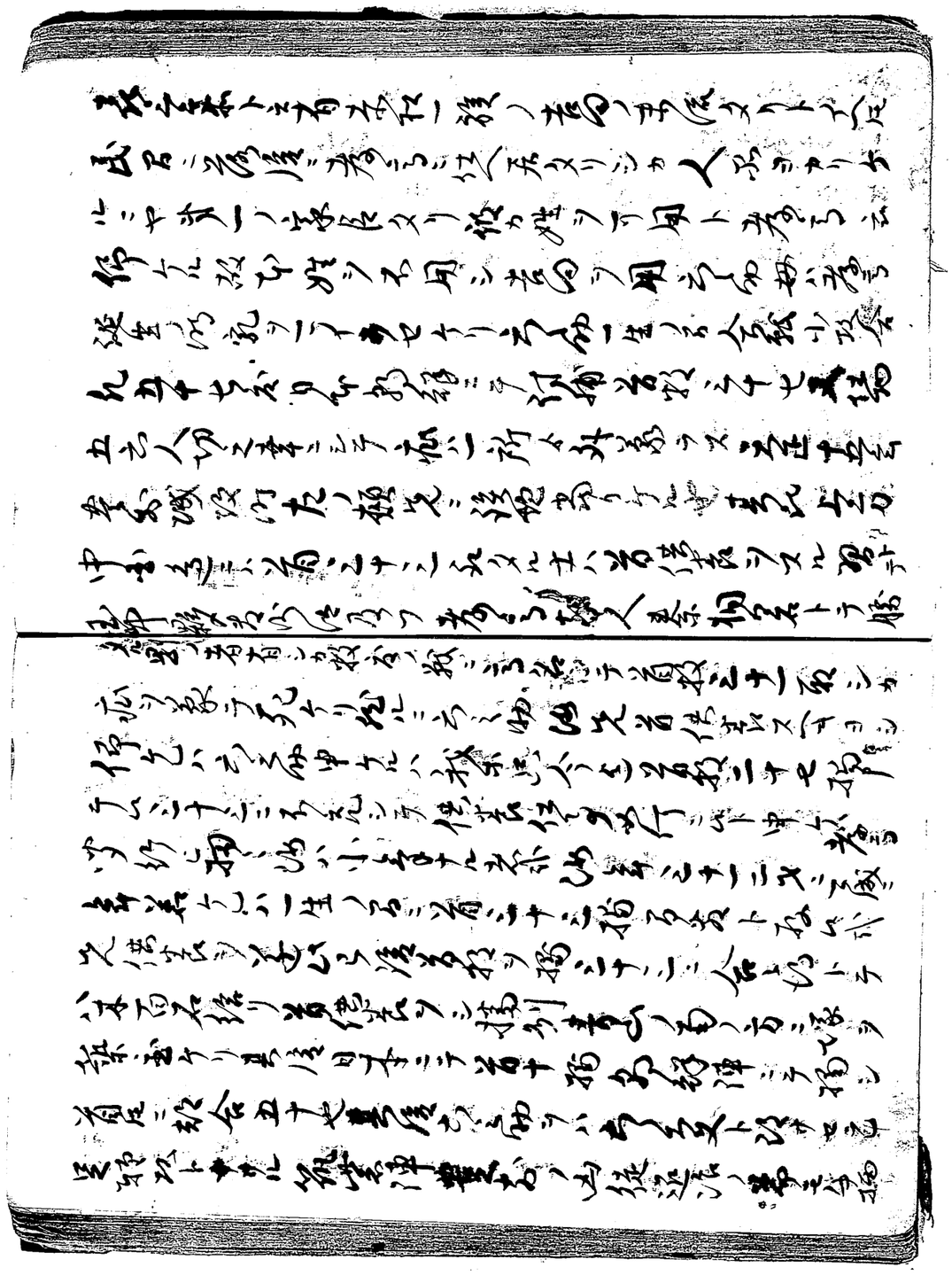
野口左助一成初名長次[illegible]
[illegible]ト人ハル新考ニ父八[illegible]入道シテ[illegible]
[illegible]七年七月[illegible]死[illegible]
[illegible]ニ仕ヘ[illegible]天正四年[illegible]
[illegible]初[illegible]
[illegible]ニテ[illegible]
[illegible]ノ城ヲ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ

タラシム同十五年修理一撰攻代ハ古文年八旬
ヨリ城ヲ引ントスルニ其切ノ名ナシハ二月中旬修理
ヲ振ヒ出ス人ハ婦男ハ左右走ル徒人ハ夜南ヲ
婦孫左ハ初ヨリ九ハ二男百名修理ヲ逃ケンニ月
老ヲ河ヲ家ヲ家ヲ七人モ同討ヲ寄ヲ小九年家孫
婦孫左ハ三ヲ濃リ陣左ヲ卜家ヲ同日ヲ年四月分
殺ヲ八十五ヲ毒ハ毛利修理姫ニ毒ヲ物ハ米ノクリ
半月是ハ天正十五年ニクリ半月ノ毒物ヲ之利
供ヲハ黒ノ左ハ米ニシテ用ヘシト長政命シ給フ
毒物ヲ天同シ

十七

吉田吉政傳

吉田吉政長利ハ本姓ハ八代也初名六之助ト云後ニ
六之丞ト改ル年吉政初ル翠庵墨代播磨国
老ヲ久狂ハ本不和家長ニ播磨ニテ播磨地ニ父飾東
郡ハ代ヲ三ヲ狂ハ地修ヲ和ヲ八代ヲ左ヲ卜云武
勇ヲ七ハ人有シト初中敵ニ眼ヲ射ル其矢ヲ
抜ヲ敵ヲ討ル剛ノ士ヲ卜ハ天文十五年生
十七ヲ初テ吉田ヲ長ヲ藤播ニ仕フ後孝ヲ仕ヲ
吉田ノ姓ヲ用ヒヲ卜ハ二十九ヲ初ノ吉ノ家長ニ



[illegible]

小柳持七ハ大男ナレハ宗人ニモ不及トラシト思ヒ
持七ノ伜幼シアノ川向ノ人メケ長持七カ長見元
所也沼ノ上ノ人ノ東ヘ馳シ是ヨリ人合セ敵ト
同シ様ニ見元ハ赤き大鎧ノ物ノ物シ振ヘシ刈
ソコニ立ヒルヘシ持七ニテ行テ其長ト敵ノ長ト同
様ニ見ヘシ時長和ノ振ケハ持七立ヒルヘシ
ヲ打テ見ケハ持七立ヒルヘシ敵ニ彩
討ハカ行ケハ持七ハ長威又ハ二ツ之ヒ之ヒ
城長ハ左ノ頬ヘ三筋ヒ上ノ歯クキニ玉ヒリ
又一生ノ名戦ハ数ノ高名ヒリトヒ此ヨリ分ヲ

不負義ヲ入国ノ後ニ城ト改ト千世名場又ハ七ツ
改後ニ城ヲ石垣ニ成ヒ城ヒ高ク成ル城ヒテ
城生水ヒ城ヒ城及作ニ今ニテ名ヲ
行ケヒ一万徳春ニ村ト云ヒ城ヒ今ニテ名ヲ
行ケ此時ニ城法和水ヒ水ヒ城ヒ城ヒ
場リ移ル城国ノ九ニ動テ城代メテシム元和元年
大坂乱起リ此時之使ニテ上ヘキ也ヒ敵ヨリ
大坂ヒ城ニテ上ヒ拵列室ノ津ヒ陣リケリ元和
元年九月十日ニ小笠高元行年廿七歳
長政遠ヒニテ次男勘兵衛田長與五一万石城年寄

[illegible]所ニ三男東市正隆政西方ニ[illegible]ヲ[illegible]ニ居シ
四千石ヲシ居シ[illegible]ト改ム所寛永十五年二月[illegible]
夜肥列原城ニテ[illegible]敵夜討セシ時隆政ノ初ハ
尚番ノ[illegible]士[illegible]ト知シ加ヘ敵ヲ追掃一人宮内
下人ニ[illegible]シ[illegible]ヲ[illegible]シ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]
右ニ[illegible]文[illegible]知行[illegible]ト改[illegible]敵二人宮内討捕所ノ首ニ[illegible]下人ニ
[illegible]敵地ヲ[illegible]ノ内ヘ[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]敵ノ[illegible]
[illegible]倒メリ[illegible]原城[illegible]ニ[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]利[illegible]列[illegible]彩[illegible]姫[illegible]素[illegible]
[illegible]小早川秀包娘[illegible]尼長光院九十五歳[illegible]定[illegible]

○[illegible]文[illegible]州[illegible]名[illegible]
[illegible]

三宅若狭傳

若狭家義ハ初名右衛門尉後ニ孝之ト改ム武功ノ威シ孫子ハ不動如山トイヘル語ヲ取テ山文ト改サセ

時ニ子ノ若狭トハ本多列之宅ト云所ニ住セシ故ニ宅若狭ト云ヘリ家義ハ武功有ル者ニテ少年ヨリ三百石ヲ給ヘ家

臣トシ行ヲ揚列ニテ度々小田合ノ時伏用郡ニ在ル

未熟真偽ヲ分ト云者ハ五万石作ル領シ一城ノ主

メリ者ニ是ヲ是トシ非ヲ非トシ思慮カヽリナンヤト宜ヲ

同行ヲ分ヲ美ヲ彼ノ為ニ是ヲ

紙ハ如ノ若ヲ人ニスルカ如ク振カラン中中ケシハ

家ヲ外ニ出ニテ

若狭ハ家ヲ出ニテ

ヲ五百名ヲ人行ヲ長ノ城ヲ

能ク攻ヲシカメカリシノ

若ニ

ヲ

ヲ

ヲ

三方秘義ノ力シ行リケリ敵陣ニテモ能働ケレハ
屋陣ノ後ハ雪ク業孫ノ子ヘント思ヒ行ケル所ニ家ノ
者火ヲ出シ小屋ヲ焼失ス陣所ニテ火ヲ付ケル
者ハ切腹サセラルヘシト兼テ定置ケレヒ山ヲ焼ク
者テヨリ武功有忠義深カラウリシカハ一命ヲ助ケラ
故ニ恩賞ハ揚ケリ家長立ヲ業後陣ノ所揚
シテ働ケレハ水感シ行ヒ業英トシテ清光ノ力シ
揚リケリ筑紫ヲ入国ノ後ニ子ヲ四石ノ孫ヲ子ヘ遠
望義若松ノ城ニ至テ上方ヲ出ス表ノ防トシ行フ
義ヒ若松ノ城ニ至テ方石ノ代宿シ新ケ和成ノ
内ニケ一毎年若殿ニ揚リケリ永年ノ以トナリ毋以

水主不能若松ニ住セシ故小伊ナリトイヘヒ人数ハ多
勢ナリシトカヤ武功義接如水ヲ取ニ申ケレハ若テ
武功ヲ長シ申ハ後代ニ至テハ徒ニモナク人モ
森申ケ弓矢ハ子孫ノ為ニ成ルヘキ感ハ少ク
申ケレハ如水義宜ケルハ其方ヲ上方ノ口ヲ豊
お義ヲ押ヘ為ノ小倉ノ城迄若松ノ城ヲ取ヘシ
天正ノ比謀信押ヘ為信ヲ坂殺正ヲ玉敷後
恨ニ為ヘト思ヒ為ヲ定ニ為メル感ハナシ
其方軍功ノ為ハ家中ノ法士兼ヲ能和ノメリ後代ニ
至テモイナシルシカルヘシトテ感ハ不揚ケリ業接
元和九年七月六日若松城ニテ病死ス行年

七十二歳ニ表揚列侯原孫ハ[illegible]
家臣ハ揚列侯原孫ハ[illegible]

竹森石見傳

竹森石見次郎ハ初名大野新次郎 新蔵後石見ト
改号父新蔵初ハ黒田下野守ニ仕テ奴僕ヨリ新蔵ハ
天正四年死スル次郎武勇人ニ勝度ヲ名ヲ生ノ名
甲斐ノ国十八討捕ヲ大正四年孝隆佐用城ヲ
攻ル時城主兄弟ヲ討捕 夫ノ去公ノ時城頭ヘ
天正七年揚列別府ノ城ニ孝ヲ義リ行シ毛利
家ヨリ攻シ時次郎一番ニ城戸口ヨリ切テ出鉄砲持
ナカラ城下ニ下リ敵ヲ追テ櫛シクヽリ出走シ敵ヲ

若刀ヲ以テ祥丹ニシテケルシ次負左ノ手ニ拾メル鳥銃
ニテ交ナカス左刀ニテ次負カ指ノ手ヨリ手クビニテ
メツミ切リ付ケレ名流和移ニテ刀ヲ拾ヒ敵ノ所
手ニテ切ラケリ是今日ノ一番首也考ヒ感シ
行フ天正八年考ヒ我家ノ名誉ヲ仕直ス為ニ
姫路ノ村雲社大明神ノ前ニテ中白ノ名誉ヲ流
ヲ制スル考ヒ得ケルハ池ノ左ノ手雑叶ハ居ル
自仰ノ働スヘカラス終ニハ敵ニテ敗死セハ敵ノ機ヲ
見ルヿ次性長スル所セ名誉ノ行ト定ラレケル
故此度ハ自仰ノ働ハナカリケリ日本ノ祥ニテ敵ノ

機ヲ見テ行伍ノ進退ヲナシメ勝事ヲ一的ニ変シ
ケルヿ度々ナリ考ヒ長五十歳家康ニ来任ノ時
長政ニ従ヒ行ヒシカ此時次負五十一歳ニ成ル
主ホンヲステ候ヒ義ヲ司ラシム考ヒ豊前ニ入ル
殺人増テ十二流トシ別ニ吹抜一流ヲ以ナ馬
ヲトス此度ハ流ヲ人カテ主水ニ所テ行シメ六流ハ
次負支配シテ考ヒ伝ヲソイメシケル素ヨリ七年
十一月九日長政ノ嫡子忠之福岡ノ城ニ生ル考ヒ
来乳有ケルハ乳ヲトセラレ長政若田ニ長利ト
次負トミ命シテ名付ケヘシト考ヒ名付フヨワテ一刀流
若ト名除奉リ同年名誉ノ行ヲ誘シテ二十流トス

吹挙トハ合二十一流ヤスヘテ次貞ニ預テ給ヒ且其地
三千石シ与ヘ給フ元和七年十月九日病死ス
法名禅定院殿年七十二歳墓野口村妙定院
角石切所ヤ次貞婚子清馬貞幸童名仙丸
正六年精列姫路生ル其ヒ子長政ニ従テ始テ
勇名ヲ軍ニ到シ其年九月穆山合戦ニ於テ敵
首数ヲ以元勢組東陣取ニテ清ハ文ヲ着ス
ヤ其所剛強ニシテ人ニトラス其長政ノ養子ニ
下野ノ守ヲ称ス元和元年ト改ル後セシカハ
勇ヲ称ニ及ヒ其ニ続ヒ大合戦ヲ信ス若ハ

西郷ノ長ナリ又此ヲ長政ヲ行ヒ九年和ハ己ニ年
ヒメル志成ニ其年カ不孔墓シトテ以外怒行ヒ
次貞ヲ呼テ戒行シカハ次貞家ニ帰テ其年ヲ逝
ヒシヌ其年後ニカナリ家ヲナレハ姫路ニ移テ長ヲ
ケリ其年ハ丑年石田ニ成法敗ノ時長政ハ
家康ノ味方ニ参リ行ヒ九月九日姫路ヲ
出発日東軍ニ至其後ハ長政ハ信ヒ主ニ関ヶ原ニ参リ
長政勲功ヲ元ニ石ヒ九万人ト成ル方略有テ
志其洞大ナリ其後営作ノ機巧者人ノ及ヒ所ニアラス
江戸大坂ノ城其後ハ命セラレ諸ハ
皆其年ノ巻シテ其ヒ営繕シム其功甚多シ

今ノ人々之ヲ伝メリ次兵死シテ後父ノ孫ノ文次
籠城ノ頃ニ寛永十五年肥前ノ原ノ城ノ
忠之ノ従ト共ニ寛永二月廿三日ノ夜ノ合戦ニ
寄手ノ陣屋ニ初テ軍功シタリケリ寄手カ者
共キ夜ニ有兵幸富ニ陣アトシテ左右ノ顔ヲ
夜必夜討ヲ為ントシテ忠ナカレトモテ陣シカ果シテ
寄手城後ヲ忍ム敵ヲ斬テ引退ク寄手或人
兵幸ニ向テ夜討ヲ行シ以テカ是ヲ
知ヤト問ケレハ兵幸対ケルハ寄手ノ物騒シ
カリキ夜ニ及テ敵ノ法ヲメセシカハ是ヲ知ルヘシ

同六月ノ頃ヲ九ノ攻撃ニ此時兵幸一番ニ黒田家
籠ノ本丸ニ入シ故忠之先登ニ成ケル兵幸後
刑部シテ道セトモス刀剣ノ目利シ能シ又蓋シ
コリセリ寛安二年三月十日病死ス行年七十二歳

林掃部直利傳

林掃部直利幼少ヨリ六郎左衛門ト号シ後年掃部ト改ム本信州ノ者ニシテ父ヲ松本主殿助ト云主殿助カ父ハ新六ト云シ者ニシテ主殿助ハ信州軽井沢ト云所ヲ領シ世々地士タリ（土豪ノ意カ）婦ヨリ七名兵衛ト云次男ハ別ニ本多右衛門ト云ヲ名乗ル（本多カ新ニ考ヘタカ）留林大学（初名カ）美濃守トナリ播州ニ来リ姫路ノ城主ト成リ家ニ仕ヘ播州ノ地戦上方遠ノ軍九州陣ノ時ニ孝ヲ尽シ長政ニ随テ所々ニテ高名有リ朝鮮陣ニテモ軍功多シ特張ニテ長政虎狩ヲ行ヒシ時鎗ニテ虎ヲ突シ事ヲ聞タリ寛永五年合戦ノ関ケ原ニテ勝負ヲ見ル為ニ入国ノ後ニ右ノ孫ヲ行ヒ大組士ノ以タリ寛永六年七月病ヲ発ス行年七十一歳白慈寺ニ葬ル黒田左馬助ノ後妻松平三河守内水戸志摩殿ノ実父遠藤ノ

原弾左衛門傳

原ハ左馬種良初名ハ宝珠山左近太郎ト号ス大義姓ニテ原田氏ノ一族タリ其先祖為氏ハ軍ヨリ軍功ノ賞トシテ筑前國上座郡ノ内及豊前ノ内ニテ領地シ賜リシヨリ世々筑前國上座郡ノ内宝珠山ニ住セリ其父天正十年中豊前ノ香春岳ノ城ニ移リ住ス大友家ニ属シテ数度武功有者ニシテ豊前ノ入國ハ早ク從フ者ニ公ヨリモ種良ニ命シテ者ニ從ハシメ軍出ヨ終フ是ヨリ後者ニ家臣トナリ者ニ其名ノ高キヲ一歩テ原ハ名ト称セラル長政城ヲシ攻行ハ

神尾山ノ城ヲ攻守テ多ク敵ヲ殺セリ終ニテ軍功豊後陣武功ハ宝珠山ノ城ニテ高名ニ進ニ郡ニ起メル働有筑前入国ノ後武士ハ米地ヲ行恵之代トナリ宗大脇流刑ノ後上座郡左右良ノ里ニ至テ隠居ノ押トシ終フ此故ニ浪原ノ役ニ從ハス忠之公其名ヲ改テ伊左ト号セラル寛永十六年十月廿六日死ス行年八十二歳其子長義モ安政ノ城ニテ武功有長政微禄ヲ終種良カ子力トセリ獨子吉義モ安政ノ城下ニテ武功有如水ヨリ二代黄ト称シテ獨代ヲ獨子ヲ獨石ト号シテ世々黄ヲ獨ヲ黄ヲ獨ヲ黄ヲ獨ヲ

為原三郎左衛門ノ弟ニ為ル 寛永十年ニ死ス 享年
四十五歳カ 子ニモ又安房ノ城下ニテ三百石有之
ノ子カトナリテ武百石ヲ領ス 種良死シテ家禄ヲ
幸義カ二男 伊左衛門ニ十五百石ニ三男孫三郎ニ五百
石分知行フセ

曽我物五左衛門傳

曽我ア五左衛門幸姓ハ長川ト云 伊勢国ノ人也其父ハ黒川
義清守ト云テ伊予ノ松山ノ城主タリ 大正年中ニ亡ス
ニ亡サレテ浪人トナリ毛利家ニ移テ居タリシカ中
国ニテ死セリ子二人有 嫡子ハ五左衛門ト云次男ハ
金左衛門ト云 天正十三年五左衛門ハ三歳金左衛門ハ九歳ニテ
孝子ノ誉アリ 仕フ天正十五年孝子ニ豊前ノ孫ノ
領シ行ヒシ時五左衛門ニ武千石ノ孫ノ場ハル黒川ノ姓ハ
黒田ニ改キフハシキニヨリ母ノ氏長曽我ア名ノリシカハ也
ノ名ヲ除テ曽我アト称ス五左衛門ハ初年ヨリ伊勢ニテ
度々武功モ有和ニ刻メル者ナリシカハ孝子ニ長ス
幸ニ為シ行ケリ文禄元年長男ニ譲テ家督
越キ後ニ隠居ハイト、被差ニ出シ行フ者也

九月十四日大友ノ意ニ従フ伯父太郎ト九郎トヲシテ
共ニ伯父タラシム久野ハ若武者ナレハ五左衛門ニ信義
セヨトノ事ニテ同伯父ニシテ従フ紀二次郎若氣ニテ戦ヲ
仕様シ討死セシカハ五左衛門モ続テ討死スヘキ事ハ八月
廿三日ニ酒谷父ノ孫ノ場ニテ二千石ノ領ヲ孤弱ナル
ヨリテ陸奥又三郎カ知行トナサシム又三郎カ氣ヲツ
ケハ酒谷モ同ク伴テ逐電シケリ元和元年
又兵衛ト同シク大坂ノ城ニ籠リシカ落城ノ後
紀州ノ大守ニ仕ヘテ六千石ノ領セリ

生田本屋之助傳

生田本屋之助重勝ハ初名小助トモ本姓陽田ヲ
名乗父ノ大膳進真秀トモ日向國ニ住シ豊後ノ
大友氏ニ仕テ十二ノ家ノ司ヒリ真秀子ノ或ハ
小膳トモ父ノ法ノ後ヲ日向ニ住シ大友氏ノ
ノ氏族ノ国ノ内ノ一ニテ大友氏ヨリ領地セリ紀氏ニ大友
氏ヨリ岩橋伯耆ノ二年筑左ニ届トモ士ノ名ノ
石同トメ巻シニ玉ケルカ世毎人大友ニ仕リテ
テノ家ノ氏ニ心ノ通ヒ中ヤメシカハ大友義鎮ヨリ役ヲ人
ノ対ヲ或ハ或ハ小膳ノ名トシ巻ケリ或ハ士ノ辛ノ

第侍ニ至リ仮令人ノ討ヲシケリ其戦功トシテ仕ヘ
居ラシム後ニ日向ニ帰リ利勝シテ多門法師ト文又
伴正ト号ス或アカ嫡子利本屋之助ニ勝ル日向国ニ
生ル始ハ隅田小助ト号ス十六歳ニ家ノ信濃ト口論シテ
其敵教シ日向ヲ出奔ス道ニテ之脇シ播州路ニ
行テ孝子ニ仕ヘン事ヲ願ヒ家臣ヲ求メ居シ折テ
其家ニ到ル其伯切死陽家有シ陽ノ仇ヲ報ス
ヘシ此ハ家ノ上家長トシテ家地行リ
ケリ其後播州生田ノ森ニテ敵ヲ生田ノ森ニ
姓名ヲ偽ルニ所々ニ尋ネ敵ヲ生田ノ森ニ
ハ偽リ後年地ニ百石ヲ賜リケリ其人トナリ豪法ニシテ
人ニ居シトラス其武功ハコレ也有シ所ハ
多ク行ラス後ニ福島ニテ病死スルヲ八十左衛
ト之後ニ本屋之助ト改宮ヲ十五年犯罪ノ原
城ニテ戦死ス行年ニ十一歳其文勝ハ剛士
ナリシトカ

舟越刑部傳

舟越刑部ハ佐ニ利勝シ本人ト号ス播州人セ
ヌラ氏ニ居ルトス播州飾東郡舟越谷ニ住ス
宇野下総守ニ属シテ戦功有者ニ其ノ名ニ

紀ヲ後世ニ垂ルベキ者ニ仕ヘケリ
其子前ノ少将守護又主ノ命ト云中比重ル
称スル者ニテ十七歳ニテ長政ノ供シテ勿論ニ
討シカ九月七日櫻山ノ戰ニ稿ノ先陣シテ人目抜ル名
シケリ長政ヨリ父主ノ名ニ自筆ノ感状ヲ給ハリ
守護ニハ馬鞍ヲ給ケリ其後
九年ノ春伯ノ城主行政ニ一揆ニ組シテ名
死シ水ヨリ感状ヲ給ハリ奪受トシテ領地給
本入形ノ其ニ新ケノ戰功多シト云傳ニ詳ナラズ
（ニモウシス紙ヲ入ル）ノ後形ノ九月日名地給ハリ

義弘ヲ主従ヲ以テ給ケリ

九二　毛屋武義傳

毛屋武義武久ハ初名光千代後ニ金平命屋主水
ヲ云ス弟入ル人ノ後武義改元江列神侍郎ノ
人世父ヲ田原左次郎ト云近江ノ地士也信長公ト仕ヘ
戦ノ時左次郎行死シ光千代孤トナリテ有シ処ニ蓮
侍内ト云者ニ少長ス月セラレテ十六歳ノ時稿ヲ
後初ノ度信長公攻亡カレシ後江列ノ方角ニ

又長尾山城守為景ニ仕ル飯家ニテ上杉謙信
山城氏ノ家ノ主逆賊ニ成ル勝家ニ仕ル長尾
ニ長尾勝家越後ヲ治ノ場ニ攻ヒ亡ノ今ニ
毛利ト云所ニテ落敗ト成ル訂ノ切ノ無ノ
是ノ時ニ切腹ケリ猶家臣ノ内品ノ毛利トヨリ
名ノ主水ト云仕ル此ニ千石賜リ又紀ノ時変
シテ負方ニ主水ト尾ニ軍役勤ルヲ十ヲ此ノ一人ノ
勝人ノ主ノ討ル者家ニ有ル処討手向切腹
及ントセシ時勝家落ノ迫キノ以テ密ニ申ノ方有
テ主水道ヲ乞リ今一人ノ逆ニ洗セル主水ハ秘密ニ

岩間利家ノ家ノ新拵ノ家臣ノ交ル者ニ奉長後ノ
信輝ニ仕テ此所ニテ武功有又長後越中ニ
下リ佐々成政ニ仕テ成政ニテ佐々武功有故ニ知ルトナル
肥後ニ下ル成政切腹ノ後中津ニ来リ益政ニ仕ヘテ領
地三百石賜フ是ヨリ先紀家ニ仕ヘシ時度々戦功多
成政家中大勢ノ士法人多シ是ハナトニ成テ方々ニ仕
長政ヘ主水ト勝野伊左ノ浅野左ノ内三人仕領地給
天正十八年ニ秀吉ノ東征有テ蒲生氏郷ニ勢
別仕ル十二万石ノ仕テ会津黒沢尻ノ領ル氏郷
大名ニ云成シ故主水ノ一万石ノ上ントス
云遂ル外郎陣ヲ他家ヘ仕ヘンヲ形チ

義安寺ノ僧侶ハ内意ヲ受ケシト中テ氏ヲ[illegible]
ケリ往昔立水山ノ麓ニ住シ[illegible]
三木城ノ夫ヲ行フ所ノ味方ノ軍ニ及フ蒲生氏郷
命徒ヲ以テ攻撃シテ氏ヲ亮カリシカ立水記事
近所ノ敵ヲ追放シ氏ヲ向テ曰ク我ハ田原全テ命ト
中テ山谷家人ニテ[illegible]ハ公ト我カ主君トハ不和ト
イヘトモ人ノ義理ヲ捨ルヲ[illegible]ヲ頼ヲリトスシ
ハ長ヲ恢テ今日ノ義ヲ忘ルヘカラスト宣フ故ニ
氏ヲ無テ立水カ武勇ヲ称ヲリ且ツ[illegible]ヲ
[illegible]ニテ今ハ立水ヲ通シ大[illegible]ヲ抱ヘシト

[illegible]ニテ所々傷有リ[illegible]ノ者長政ヲ[illegible]
ニテ切有リ士恩ヲ[illegible]ヘ行フ立水ヲ[illegible]百石ノ[illegible]
ヲ[illegible]ヘ[illegible]シ氏ヲ[illegible]ヘ行ントス高月[illegible]ノ思ス
[illegible]長政ノ[illegible]ニ長政[illegible]シ行ハス立水カ[illegible]
[illegible]ナト之ヲ法人トシ[illegible]立水[illegible]
走ラシメハ[illegible]士切腹サスヘシト思リ極テ上[illegible]ヲ以テ
命セラレシカハ[illegible]ヘ行フ不成ケリ[illegible]
[illegible]家ヲ奥別ヲ進ム[illegible]長政立水ニ[illegible]
西人ヲ所テ石奥セラル関ケ原ノ役ニハ[illegible]
[illegible]ル合戦川ニテ日[illegible]ハ川上ヲ[illegible]シ行フ

長篠ナル所程河下ヲ越行フ之水川端ニ至テ旗ヲ
押立敵ヲ迎ヒ城シ所ノ如カシメリケン長政ノ子孫ニ
伝ヘテ旗色悪ク見ヘケレハ之水味方敗軍ノ色有
ト云キ馬ヨリ元下リ鑓ノ石付シ杖ヲ旗竿ニウツ
ムケカヒ上ヘトト和ヲナシ旗ヲ伝ヘ候ハ忽突殺
サント申ケル岩巻トス旗指強刀着セケレハ取分彼
ノ人ヲ之水モ同シ様ニ思ハヌアケ押立サ
セケレハ旗色直リケルトヤ関ケ原ニテ九月十五日
敵前中納言陣所俄ニ寄ハキ之ノ中家康ス人
言上ス彼ヨリモ物見シ出ケリ長政ヨリハ之水ヲ
物見トシテ云ヒ遣ス如ニ之水陣ヲ内ヲ出カリシカハ

又慶長五年清ヲ長ヲ又長政遣ニテ之水ニ仕ル之
敵陣ノ様子ヲ何ト問ニ之水答テ合戦ハ有ニシトハ
慶長何ヲ以テ方ヲ申ソト云之水カ云今日早ハ内ニ
及ヘリ今人数ヲ押ヲ立ヲ七ツニ及ヘシ戦ヘキ為ナシ必
定陣替ナルヘシト云捨テ之水ハ敵陣ヲ長政ヘ赴
赴申ケレハ敵ヲ敵ヲ見ケリ慶長モ陣ヲ休陣
替ノ由申ケリ九月十五日物見ニ出ン敵人数ヲ見様
也ニ 家康ノ内ニ陣ニシテ居ケリ注ヲ見ケリ
ル物見ニモ皆ヒトツトヲ各敵多勢ノ由云上ス之水
一人敵ハ多勢ニテムヒカケハ大軍トリ見ヘ人数ヲ見ル
敵ヲナスヘキ軍勢ハ有小西安西ら陣ヲナトヨリ外ハ

家屋ヲ焼カ城シ紛フ
又当日敵合リの立火ハ山ノ岩ヲ都テアナタ多ク
早父ニ籠シ立ナセナル長敦ノ人紛テ山ノ方ニ人引
上籠シ立ハヘト宣フ立火申ケルハ蒙ヘ抑トリテ
立申メルハ籠シアトヘ歌テ云ハヘハ伊上負也
ニ成申ハ孫ヘ立重ヲ敵方ヨリ敵軍トルハヘシ然ハ
敵方ハサムヘシトテ終ニ籠シ立ヒケリシト云
原ノ武功有トイヘトモ加恩ナシ偽之如水宣リ毛屋ハ
行トテ領知カ偽シ紛ハサルト有ケレハ長敦日ヒ毛ハ
恩シトストイヒ敗者場ヲ見ヲ西目ヲ矣ヲ山ヲ

今以施ストナリ水ヲ紛ヒ紛テ多ク今ニ至テ山ノ麓
残カルヘキアラス武功偽ヒ人ハ山カテカ恩賞ナ
ルヘキト宣シ故長敦水引シカ孫四百石本領合七百
シ与ヘ足軽ニ十人シ領ラル其後毛利ニ参
テ名シ戦場ト改サセラル武義若キ内海ノ者ム
セシ故四十ヲ召ルテ妻ナシ実ニ賢ニ不図城井
中務カ家人ニ見木掃部ト云者ハ大剛強ノ者セシカ
長敦ニ宵テ亡ケリ其妹ヲ人シツレテ義
人ト成テ居メリシヲ長敦ノ命ニテ武義是ヲ娶ル
其生所ノ子ヲ為吉ト云武義カ嫡ノ者ハ見木

為ニ戸ヲトス其田英作ニ武益ガ養子トシテ仕ヘシムル
孫アリ武益寛永九年七十五歳ニテ歿
ニテ病死ス

竹森松若傳

竹森松若ハ石見ガ才也ニ大文二年揚列大老ニ
仕ヘシテ考ラニ仕フ勇力人ニ勝レ戦場ニ出ル
コトニ武功人ニ超クリシカハ其時民俗ノ説ニ竹森
松若夫カ絶ヌトリ称ヲ賞シケル大正十年考ラ

秀若公ニ従テ清州大将ニ居行フ此時佐久良民政
中川清秀カ砦ヲ攻ケルニ清秀カ方ヘ往ヘキト称シケ
リ思ヒ敵地ヲ渡テ離カ清秀ニ告シテ云ハ
ルニ左右ニ有ニ者安堵有テ人ノ系ラントス者ナシ明ニ
松若進ニ出テ曰我ホ系ヘシ縦敵ニトラハレタリトモ我
必君ノ命ヲ恥シメニシトテスンテ行ケルカ其後
帰ラス其死ルヲ不知敵ニトラハレテ殺サレタルナルヘシ
時ニ年二十二歳也考ラ其悔哀ニ行フ松若十
六歳ヨリ死メルニ至ルニ勝テ働ク者ヲ称ス
九度也進行ノ第ナト抽メルヲハ松ヲ知ル松若

秦桐若カ如シ娶テ子一人有新ナリト号ス長
ハ[illegible]ト云フ大正元年姫路ニ生ル松若死スル時
ニ[illegible]年七ヶ月ニ及テ七歳ニ位ヲ辞シテ退
居シ隠者ト成ル是母ノ教ニヨリテ福岡城下ニ
移リ住居家甚富リ商家トナリ又長子ヲ養
同市中ニ住居ス長子人生ニ至テ富
貴清潔作ノ家ニ悖ラズ行テ孫ヲ得ルモ
仕金ノ分ケ書新カ入送未タ嫁ス[illegible]
書子男世家絶金方[illegible]
三人[illegible]年[illegible]
[illegible]

秦桐若傳

秦桐若ハ横列之人ナリ孝ニシテ仕ヘ数度軍功有
以ス人トナリ至テ健ニシテ十人ノ力有数場ニ出テ
年ニ歳ニ拉浪ル度シ常ニ[illegible]ヲ求メシ故ニ横列ニテ
近国ノ者ヒ桐ノ若カ指物シ見レハ敢テ進ミ近
付ス桐若カ指物ハ唐冠ヲ一ツ羊有ケリ度ニ
ハ敵ニ赴クトキ[illegible]物渡シテ敵ニ出合メン時是ヲ
出スニ又ハ[illegible]時後ニ[illegible]シケリトソ敵ノ首ヲ捕ル
ニ于ニ於是ハ家ノ信シ招文テ首供養シナス

勇ヲ恃フ士是ヲ義ナリトシテ山賊義
為ノ大ニ剣ヲ帯リケリトカノシ癖治シケレハ剣
口已ニ金ヲ居ル人金ヲ快リ正月梅
別有ラン湯泉ニ入ケレハ不日ニ平癒シ剣口
モ金ヲ嚙メリ 梅若母ニケルハ此湯ノ効験浴シテ
必ス剣ヲ産セリ況是ヲ吾ハ其功蓋スヒヤカ
オフントテ二弱飲ケルカ忽ニ腫痛シ暴泄
度シテ剣口再ヒ起リ気絶昏迷シテ死セ
リ年四十二歳ニ成ル此ヲ以テ子孫
人有婦女ハ行末若カ長ト成ル 二男早世ス

二男ヲ孫蔵ト云四男ヲ長右衛門ト云者ニシテ長男
父ノ勇名ヲ継シメント思ヒケレトモ其母ヲケルハ我夫男
ヲ好ミシ故早世セリ今ノ寡婦ノ如ク方ノ産ルニ我
子ヲ又士トセハ忠ラケハ命ヲ長カルヘシ然ラ我源ヲ枯テ
人命ヲ縮ン送ラントテ遂ニ者ノ言ノ命ニ応セス孫蔵ヲ
流ユトシ長男ヲ産ユトス 孫蔵ニ来リ高ヲ事トシ
ケルカ長遂孫蔵福島市中ニ有リ

馬杉長右衛門傳

馬杉長右衛門一正長又ヲ薩摩ト云其祖父ヲ皆物ト云

先祖代々江州ノ者ニテ佐々木ノ家良久リ馬杉権守
実宗佐々木氏綱ニ仕ヘテ後ニ其子義実ニ仕フ義
実ノ二男龍水丸若州ノ武田義宗ノ養子トシテ初
メシ所権守実宗傳沖ト名リテ若州ニ赴ク此権守ト
イヘルカ馬杉氏ノ元祖ナリ其後八弘治元年江州勢
ノ為ニ生捕ル小弟孫十郎ト共ニ本国ニ帰ス内
通シ為軍敗北シ滅セントセシカ其ニテ十三歳ニテ
初テ軍立ス天正十八年相州山中ノ城ヲ攻ル若公
攻サセラルカ其兵ハ一柳伊豆守討死シ所ケリ伊豆ハ若公
山中城奉ノ所伊豆守討死シ所ケリ伊豆ハ若公ノ
姉婿ナリ故若公ハ若公ノ幼少故若公ノ従
ヲテ長文月シ所ノ山中長吉ハ也ト杉浦ニ随テ若公ノ
来リケリ為羅津ニ長政ノ供シテ朝鮮ニ渡ル
有晋州ノ城攻ノ時ニ黒田家ニテ二番ニ城ニ
ソシ攻リケルナリ長吉ハ其後陣ノ内ニ
ヲ以安治ノ城ヲ攻ス龍ノ口入ノ後十石ノ禄ヲ与ヘ
ラル寛文八年ニ八十三歳ニテ病死ス

村山角兵衛傳

村山角兵衛ハ本鍋島加賀守家人ナリ角兵衛初名

平松金十郎ト云平松ト松平トニキ京シキニ係テ村山ト改メ
名ヲモ角左衛門ト号スナリ十三四歳ノ時加賀守ノ侍童メ
リシヲ初鉄陣ノ時長政旧前名古屋ニテ通ニ出メル
ヲ見行ニ供童ヲ我ニ行ハヘト宣ヒケレハ加賀守辭
スルニ不及シテ家ヲセサル其後豊前ニ来リシカハ初ト
ニテ度見ニ至テハ必ナリトテ二宅若狭ニ頼テ婿トナセ
ラルヽ慶長五年八月廿三日濃州ノ戦ニ長政合流
川ノ先陣ニ行フ此時角兵衛ハ未元服ニテ敵陣ニカケ
入能敵ヲ討テ高名ス同年九月十五日関ヶ原戦
時濃州氏一戦ニ手負引退ケルカ其場ノ内ヨリ後
子ヲ伴ノ浅野ヲ扶ケル武者一騎引ツレテ退ケ
角兵衛是ヲ見テ浅野ヲ扶ケ此ハ以テ如何ハ
ラサリシカハ馬ヲ乗テ進行ヲ三ヶ所ヨリ突合シカ
角兵衛終ニ敵武者ヲ討捕テ長政ニカケ下中ケレハ
勝メル働ナリトテ感シ行フ天下治リテ後長政江戸
ニテ客ニ対シ角兵衛ヲサシテ此者ナトモ合戦ノ戦ニテ
一廉ノ働ニ高名シテハ他家ニテハ此者ナトカ武功ハ
比類ナカルヘシ我家ニテハ不孝ノ武道此者ニ物ヲ
イハセヌ者我ホ家中ニハ三十人汁モ丁有ルトソ
伝ヘケル

毋里雅楽助傳

毋里雅楽助始ニ利警ニシテ古屋ト号ス父ヲ小兵衛

祖父ヲ長盛ノ臣佐々木義流ヨリ小笠原或ハ島
識隆ト同軍ニ出シガ識隆ニ語テ曰我世度ハ去
死スヘキ若死ナハ老母ニ内室ナシ我ヲ必要リテ我
幼少ノ男子ヲ養育シテ行ト云リ果シテ其軍ニ
テ小兵衛我死ス遺言ヲ世識隆其事要
聞ス并一柳伊豆ニ室ヲ生メリ雅楽助年
長シテ甚勇猛ニ拾列ニ沢彦彩ト云山
伏有大悪僧大男ニテ大力成シカ気質
甚盛成陣里ヲ浸シ掠メ奴村ヲ仆ス我ヲ
好テ徒百五十人許ニ随テ孝言ト度々
敵合ケリ矢吉公播列ヘ下行ヲ西ヲ矢吉ヲ
伯ニ近ク或時ハ急ニ孝言ノ近ヲ浸シケリ
者ヲ取ントリアヘス里紛ヲ乱ヲ家ニテ家人
スハメハタセ馬ニテ出ケリ雅楽助ハ里
ナ家カ伊ト云シ者カ二人
ハ寸ノ刀ニテ沢彦彩ニ渡リ合沢彦彩ハ
以テ切合ケリ伊藤カ左方ハ長彩カ具足
ワメカミ迄切ケリ沢彦彩カ左方伊藤
ナリケレハ一刀ニ大力ニ切ケレ雅楽助
迄ヲ足ヲ沢彦彩ヤ引ヨリ下ニ矢ヲ急ケル

[illegible]

七年ニテ突ザシアケメリ此内ノ義ニ西里一家ノ者
所ニ十四人ヲ死ス是ヨリ弟弟ハ孝ヲ以テ
武士ヲ止京ニ登リテ安ポ小コトヽス是歟
来リ所ニ陵毒ヲ以テ政ヨリ早下シ所ニ男子二人
有リ七歳ト五歳ト云フ孫四家ニアリ

加賀国書付

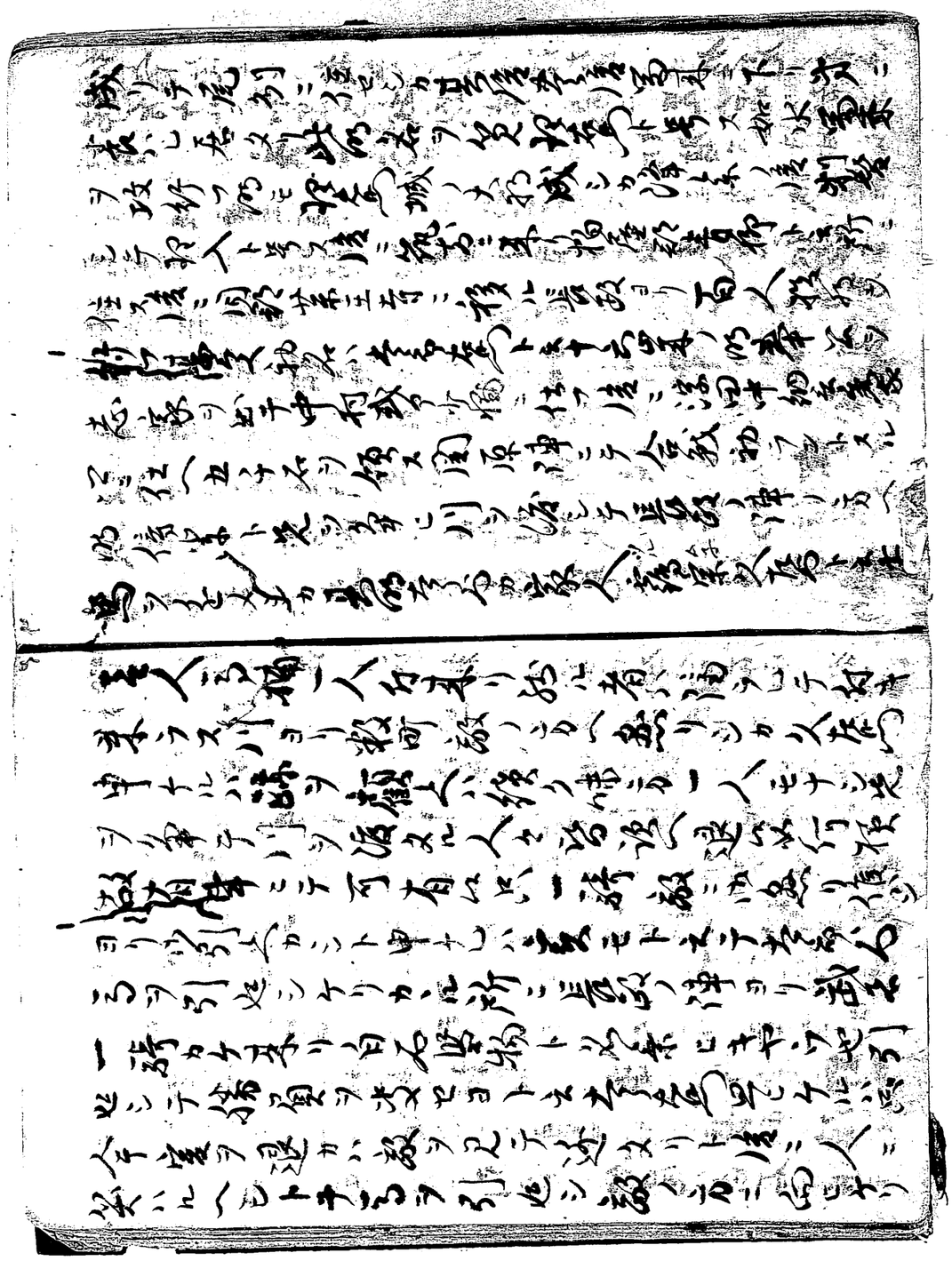
加賀国ニ吉成初少名九郎左衛門後ニ内匠ト改
[illegible]前ニ来リテ後国ヲトラヌ横列人使人ガ家
又左馬ガ嫡子ニシテ黒田ニ左衛門ガ兄ヤ初
浅田秀家ニ仕フ文正十九年秀吉公
九州ヲ征伐シ給ヒシ時日向表ニテ義有ニ
敵対軍セシカ黒糸威ノ鎧着タル武者一
誘殿シテフリ仰見ヘケレハ内匠此者ヲ目カケ
追ケ掛ヲ急ケシ彼敵ヲ引ニテ二矢
ニテ射ケレハ遂ヨケレハ裏ガハス去後後ニテ
仕アイシカ所勝負ヲ決シカタカリシ故内匠思

ケンハ家おろうニテ射メル所ノ矢ノカワウノ考
合スレハ力量弱カラントト思ヒ組テ勝負ヲ決
セントスカケヽレハ敵モ此段ニ同シケリ故ニ組合
ケル処業ヲ以テ力弱ク輪組ヲ取ケリ為ニ
ニテ所々御新入ノ侍多給人集大門ノ内ニテ諸
ケレハ弓ノ内ニ拔ルヘキ方仕ヲサウアリミタル所ニ
其日ノ先手メルニヨリカ量人ニ越ケレハ信ニ
打セメル鳥銃又取カウシテ敵自身内ニ入
敵ニ少シ居メリシ切形門ヲ元体方ノ注意
内ニ入ケルトセ大関元ノ城ニテ又多給元ノ城ニテ
有ケンヨリ不ノ諸打教日黄給ハ所落ケレハ攻
シ退キ攻ニシ打フ此内ハ摂津守ニ申ル
今夜々討ニ成ル外候此ニ摂津ヲ足ヲ下ト
ニテ思ノ者ハ内ニ家来清水ノ内ニ本者ノ
取係ニ成リ高人数ノ中ニケルニヨリ
人数ノ二分ニ分押寄メリ内ニ下知シケルハ追
手ヨリ関ノアケ攻ハ敵案ノ追手集ン易
搦手ヨリ来人ヘシトテ関ノ搦ケンニ出来夜討ニ
セラルヘキトハ思ヒ寄ラ対ス驚ル シケリ此内斧ノ
ハステ門ノ手仍ントシ又強勢ノ二柄芝ヲセケレハ
敵当追手ニ集搦手ニハ寄兵ナカシ故内ニ

一番ニ敵ニ入リ後陣ニ至リ敵人多
ク捨テリ其外働有リ時ニ十二歳出陣
ヨリ以来ハ度々ノ働ヲ為シ長政公
ヨリ感状ヲ給シ故黒田英作ニ命シテ
今般高知ニ十石ヲ与ヘ給フ後ニ又千石加恩シ
延享ハ大坂ト云成賞永十年五月病ヲ
發スル事七十二歳

〈佐尾喜文傳〉

佐尾喜文家延ハ本姓ハ[illegible]見ヤ豊後国[illegible]
城主[illegible]ノ郡代ヲ兄理右衛門カ子ヤ初信長ヘ
仕ヘテリ其後信長公薨シ後ニ流ヘト成テ[illegible]
秀吉公ニ召使ハン由ニ依テ豊臣ヲ[illegible]セス[illegible]
[illegible]ノ招ニ応スハ後ノ禍ニ成ヘキカトテ其
小[illegible]未幼少ナリシカニ秀吉公ヘ仕ヘサセナリ秀
吉公天下ヲ治メ給フ理右衛門小[illegible]ヲ取立[illegible]
給フ後豊後ノ国ニテ壱万石賜リ寄[illegible]ノ城ニ[illegible]
理右衛門ハ初ニ秀吉ニ対ウリシニヨリテ切腹スヘキ由ニ
御[illegible]ナルニ和泉ヲ我恩賞ニ易テ兄ノ命ヲ救シ
給ヘト信ケレハ赦免シ給フ後佐尾ノ姓ト



白石ハ行ヒケン我ニ及ス引退リ飯尾ハ白石ヲ追テ
長政ノ陣近リニテ追ヒケリ是ヲ見テ長政ノ陣ニ
ナヲシ若キ兵ニ飯尾ヲ討取ントテ走ミケリ宮ノ野ニ
左助ト童田与助中ケルハ敵一人逃走ル事ヲ
者ヤ加藤ノ士ヲハ討取物ニ恥スル人ヲ敵一人討取ル
人捨ヲ横メ城ニ創シケルハ河内ヲ捨ルトセシ兵ニ
思ケンヲ又ス左市左ヲ名ヲ名ヲ家ニテ引退リ白石ヲ追テ
ヒシヲハ長村ヲ長ヲトヲ家人モ追行ヒメリ其ヲ深田
秀家ノ陣ヲ抜ヒテ士卒思ヒニ為ケリ左ヲ兵山
中ニ退ケリ深田輝政ノ家臣飯尾市正人数ニ

十人連退ケリ是左ヲ左ヲ姉聟ニ市正退ケ追ク
成テ是ヲ人ニ左ヲ左ヲ左ヲ

人ハ樊噲ヲ歌クホトノ者ニテモアレ病弱ナル故ニ為人ヲ討セ其上血ヲ吞セナトスル事是迄
タル法ヲ以テ二番ノ故ニ為人ヲ討セケルトイヘリ
其後法人ニナリテ居タリシカ関原ニテモ其功ヲ
ニセラレタル戦功勝レタル由長政ハ浮田秀家ノ
[illegible]ヘ元我ホハ浮田ノ京都屋敷ニアリト申
合セタルハ江戸ヘ下リ秀忠ヲ求トテ親ヲ下ス
其後加賀屋出羽ニ浮田秀家ヨリ恨ヲ申シ招ケルカ義理
トコロモ不下ハ父利長ノ為アシカルヘシト申セケレハ者
カラ及親ノ為ニ其ノ長政ニ仕フ名倍ノ城ニテ死テ

孔中上長政ニ至ル行ヲリテ宣ケルハ其方ハ関
原陣ニテ敵ヲ見テ逃メリトハ何ト為ル迷メン
ラル其方ハ何ニ此ノ通ニ成ル迷中ニテ其方
細ヲ申サス自名堅物次ノ者ニ有ケルカ長政ノ
[illegible]迷中メルハ其方ハ一人ニテハ無リケレ
其方ニ逃ハシ何カ迷中メル中ケリ其後長政
余人ニ向ヒ其方ハ[illegible]メルヨリモ能士ナリトソ
宣ヒケル其後名ヲ其文ト改称シテ五百石
行リ先キノ名字ニ二十人敵ヲ[illegible]後ニ又五百石
カ孫ノ行ニ鳥銃ノ大将ト成寛永十五年

二月肥前島原城攻ノ時強キ働シテ疵ヲ蒙テ討死ス 歳七十一歳

帖負八十八葉
享保十七壬子年初冬中九日書写 左毫
安川直勝

五十有九

一竹中主膳

一竹中半兵衛重治

養源院不破郡山之内城主息井伊殿ヲ聟ニ二男主膳十三歳筑前下家ニ十九慶長七壬子年二月十六日ニ病死

長政公ノ初年秀寿ノ山岩手奥ノ嘉瀬トテ城ヲ築ク井ニ兵庫大夫ノ分仕ル 竹中ノ子孫

年三ヒ下ノ方ニ居ル子孫ノ分仕ヘシ

村田右馬傳

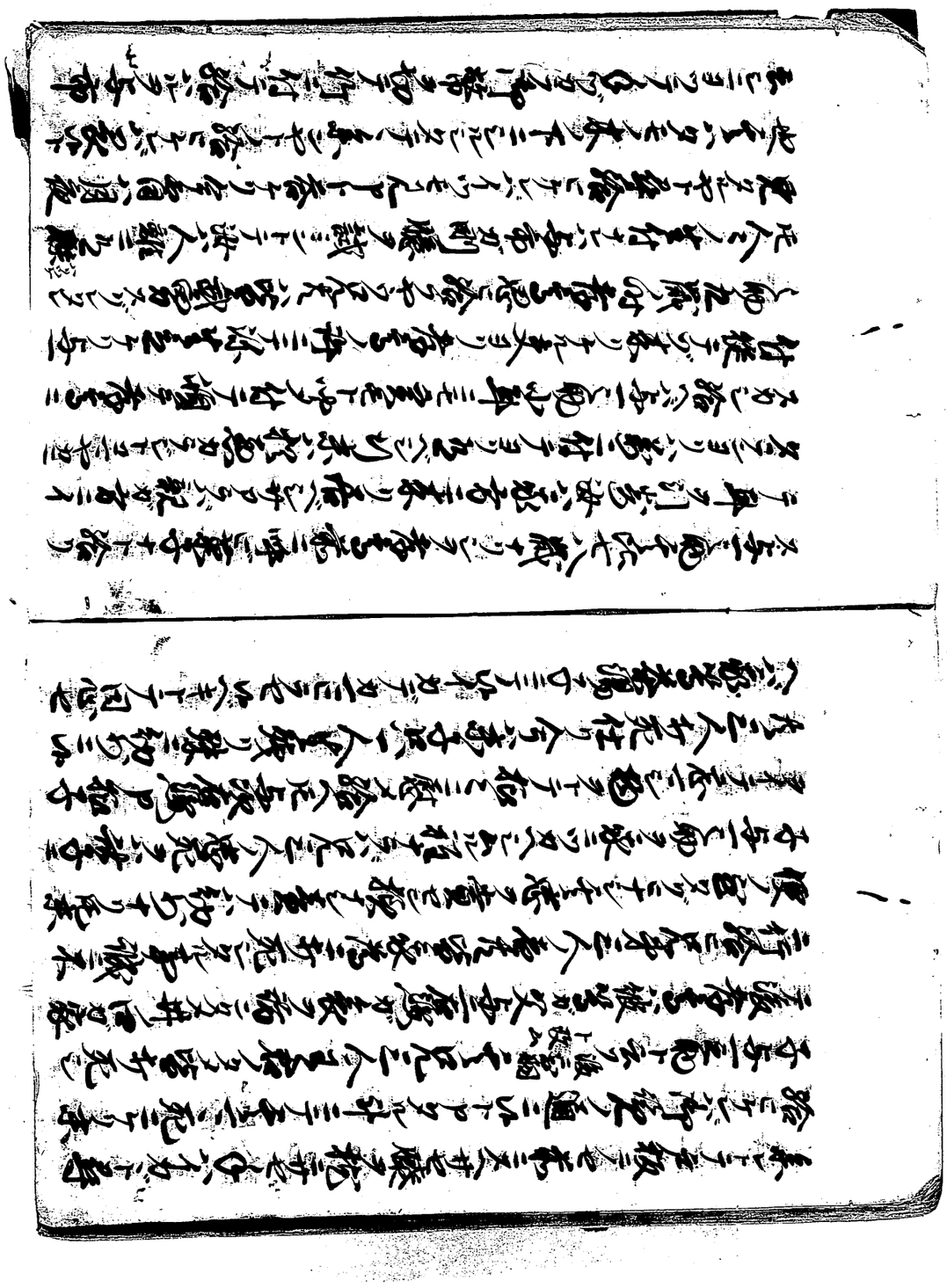
村田右馬ハ初名与一ニ而駿河ニ生ル駿河ニ城アリテ居ル所ノ命ニヨツテ村田ト號ス本姓ハ井口ナリ駿河ニ居ル故ニ井口ト改ム父ヲ井口与二郎藤ト云ヒ代々播州ノ地主ニシテ一城ノ主タリシカ赤松ト不和ニナリ赤松ノ為ニ敗シ難ニヨリ城ヲ退キ海路ノ近所都ヲ上ル故ニ居住シテ漁人トナリ与二郎藤ハ領地ニ離レテ年久シク一向ノ農人トナリ田地屋敷廣ク持ツ数十人ノ家人ニ耕ヲセテ世ヲ渡リケル井ニ死ス嫡子右馬ハ勇ヲ奮ヒ居ル所ニ住ケル秀吉播州ニ来リ給ヒシ時右馬ハ

テ動キ給ヒシカ長ノ拝トイフ城ヲ攻落シ給ヒシ時拙者
ハ三ヶ月取巻居候ニ動シテハ者ども感シ給ヒテモ長坪
ノ城ヲ拙者ニ命ト三宅義十郎（後義若敗）ト二人ニ城ヲ墨ニ自
者ども共ヲ勤メソコニハ在城シ給ハズモ恐ミテモ
城ヨリ落タル者ども一族拙者ニ大勢ニテ攻付ケ墨ヲ取リモ
案外破リテ未曾有ノ者ども人数モヲキ城ナレハ中ニ孔
分ニテハ寄難ク者ども未拙者ハ引ヒ給ハレ義十郎
ハ急遽付拙者ヲ頼遣シニテ後陣給ノ拙ニ戻ヘシト使
議シ義十郎ハ人数百二十バカリニテ攻付ケ墨ヲ取シカ
人数ヲハ多クハ殘シ墨ニテ城ヲ守ラセモ明ハ攻

二十人計ニテ切ヌケント云合セシ所ノ城ノ集リ撃及十郎カ
手勢ニシタカヘニテ我先ニト攻付ケ取リ敗北ス
テ利ヲ得テ信モナリ敗人タリ大ケハ拙者ハ死ニカヘ
ヲ開フセギシ立ヘ者ハナリ敗モ攻滅ズ夜モスデニ明ハテ度ノ
鉄砲ニ後陣ノ強者共見ユルヒホニ拙者ハ敗ノ長刀ニテ
行脚ヲナギ落サレ石垣ニヨリカヽリ居タル敗ヲソレテ
リ付ズ拙者ハ最後ニ大音アゲ城ノ大將井口拙者
助腹切ノ首ヲトレトヨバハウニテ腹切テヲ死ケルヲ撃五
十人カレ共合百八十人殘ラズソコニテ死スモ撃ノ内
ヲ見ニ人生殘リテ三ヶ所ヲハ者ども三若ニテケル拙者

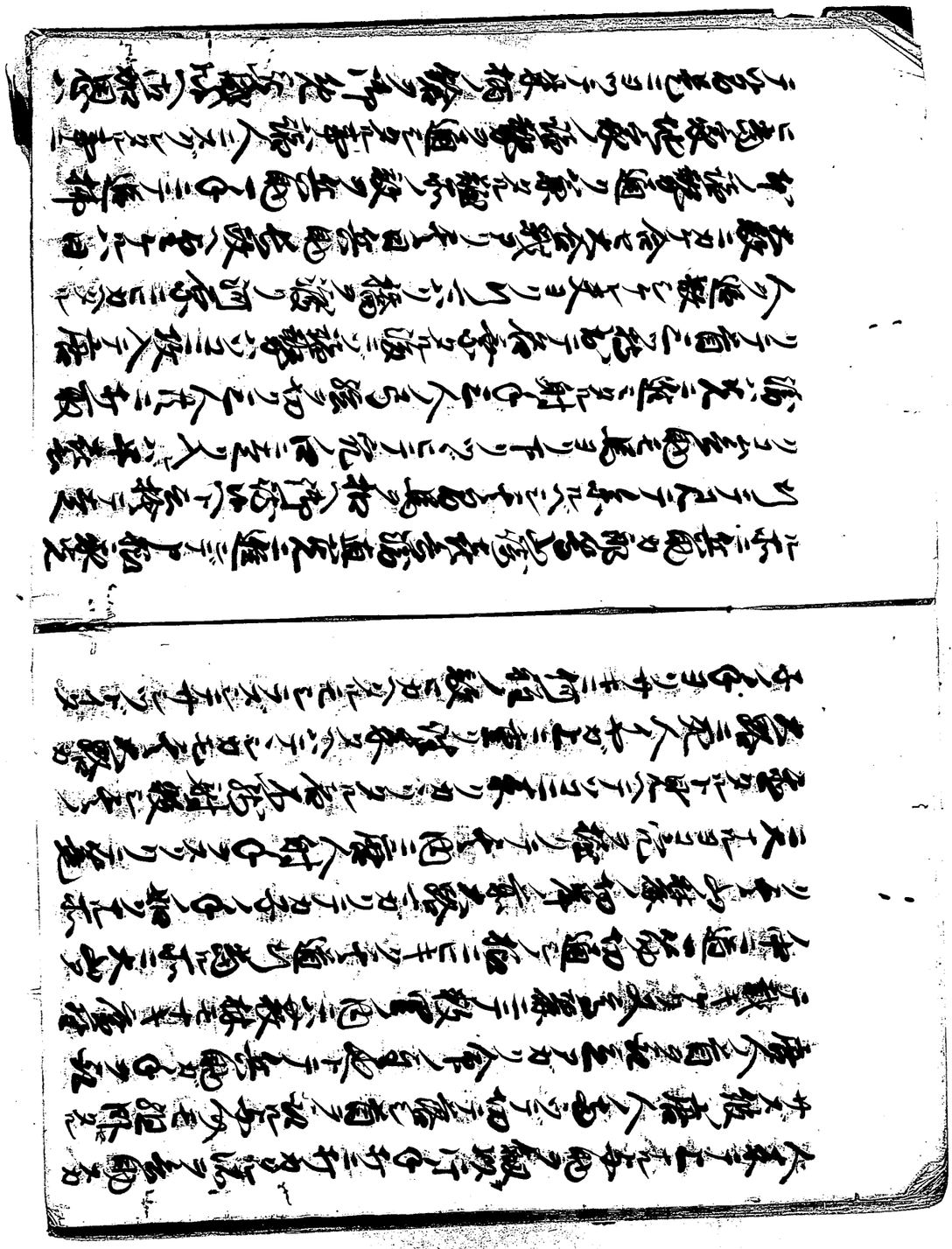
カ弟六郎又三郎ト云フ六郎カ不ニシテ動武勇ノ誉
ヲ者ヲ見付テ小笠ノカシラ（ト云ヒ）ヲ攻ル事ニテ六郎又三郎
重給フ六郎又ハ数十人モノ外石五十人加給ニ都合
二百人ニテ堅メタリ是ニテモ又逆徒起リ攻ノ国ハ六郎
事度モ敗ヲ進ル拙ク防キ戦ヘ度敗多勢ナレハ終ニ討死
スル六郎又弟十郎ニタ童形ニテ常ニ者ヲヘ仕ヘケル
或時者ヲノ家臣羅科アリ折ヲ毎人ニ合セラル彼ノ科
人出城ニテ厚木ヲ上ル不ヲ村ニトセラ柳ニ折ヲ毎人ヲ
切殺ス所屋ニ十リ大家ニ取コモル者ヲ弟毎人モ加リニ
人ニ不ニ切ル意ル人ニ取カコミ勢五ツ付ヨリ暁ニ七ツ付ニテ

吐郎ヲウツシテハカヲカヌ腹ニ注進カラ事郎キニテ相
見テ不ト云ヘ足者ヲ見ニ給ハス御ハイテ屋ニ切リ
長十郎ハ元来病レタル強カナリ取コモル者ヲ不ニ行ワク
トヒトシリ門ノクリヲ取テ引敬シソレヲクシテ拒ケル彼ハ
コモリ者ニ人切テカルヲ四人ヲ者ヲ二拒タルリ手ヲ以
テ行倒シ一人ハ切フセ行倒シヲルニ人ヲモ切殺シ二人ノ首取テ
馬ニ乗ニ所ノ辻ハ所ノ門キハニテ彼科人ノ家人三人ノ首ヲ
ヲ事郎カ拒ヲ見テ給ヲ以テ事郎ガタヘ中ヲツキト
ヲ又突レテ倒ヲ者ヲバ又キ打ニ四ヌテタレ死御ケレハ馬ヲ
リ給テ死入ヌ暫クシテ生（イキ）カヘルヲ者ヲ少給ヒ意キワシテ



福地ヲ拾リ藤木ノ下ニ立シトスルハ物木ヲトリ安
動タリ立住ハ倫ラントスルハ又フラ〳〵ト動クヲ人テ一ツ死
キヲスカイテトヲ拾テトラセントテ木ニ上ルヲ其ヲ与一ト助ヲ
ドシノ為ニ沙地タル人ナレ敵馬キ花ヲリニケリヲ与一ヲ人テ
知人ニテ名ヲ二リキ沙弟也ノガスミシトテ近カリルセンカナリ
社ノ内ニ迯入内ヨリ戸ヲアラヒシトタテタレバイツニテモ宿テ如ル
切シトノシレヲ拾ヒ名ヲ名乗尼ユサリシ九殿ノ御
意ニテ系リタリ殿ヨリ御ヲセヒユカタノ行神ヲ雖振ニ弘
テ免シ比ヘト侘テヲカヘシナレヲ切キハヨリ雷アルヲカリ
ゴトシ長政信長公ノ人修ドシテ拾ヒ与一ト助十三

歳ニテ上政ヘ陪仕シケリ十六歳ヲ合戦ノ辺ニ九歳ノ時我
指ニタイテ川向ノ敵ヲ屋毛馬ニ乗拾人ニスリシ人ヘタルヲ与
一ト助カ十三ニテ川ヲ渡リ恩ヲ敵ヲ打ヲ鎗カ物ノ具
ニテ和ニテヲ馬ニ打乗拾リケレハ考ヲ人拾ヒテ腸ヲ
ヒヲ名ナレ尼川向ノ敵方ニ兵ヲ人リ動リ拾ハ危キ事
向ノ敵ヲ方ヲ戒拾ヘ与一ト助常ニ馬ヲホシリ居スル形
成敗ヲ良馬ニ乗ヲルヲ故如仕ハト拾ケレヲ振名ヲ主助
ト敗ケルヲ要略ニテ兵助カ信輩豊田与助居人ト組ヲ居
人ノ取テ抑ヘ居ヲレハ与助ヲ与助ヲ踏テ与人ハ拾ヒ
又見テ手ヲ入ケレヲルカト驚ヲ名キ助付ヲ人ヘ又一人ノ居人



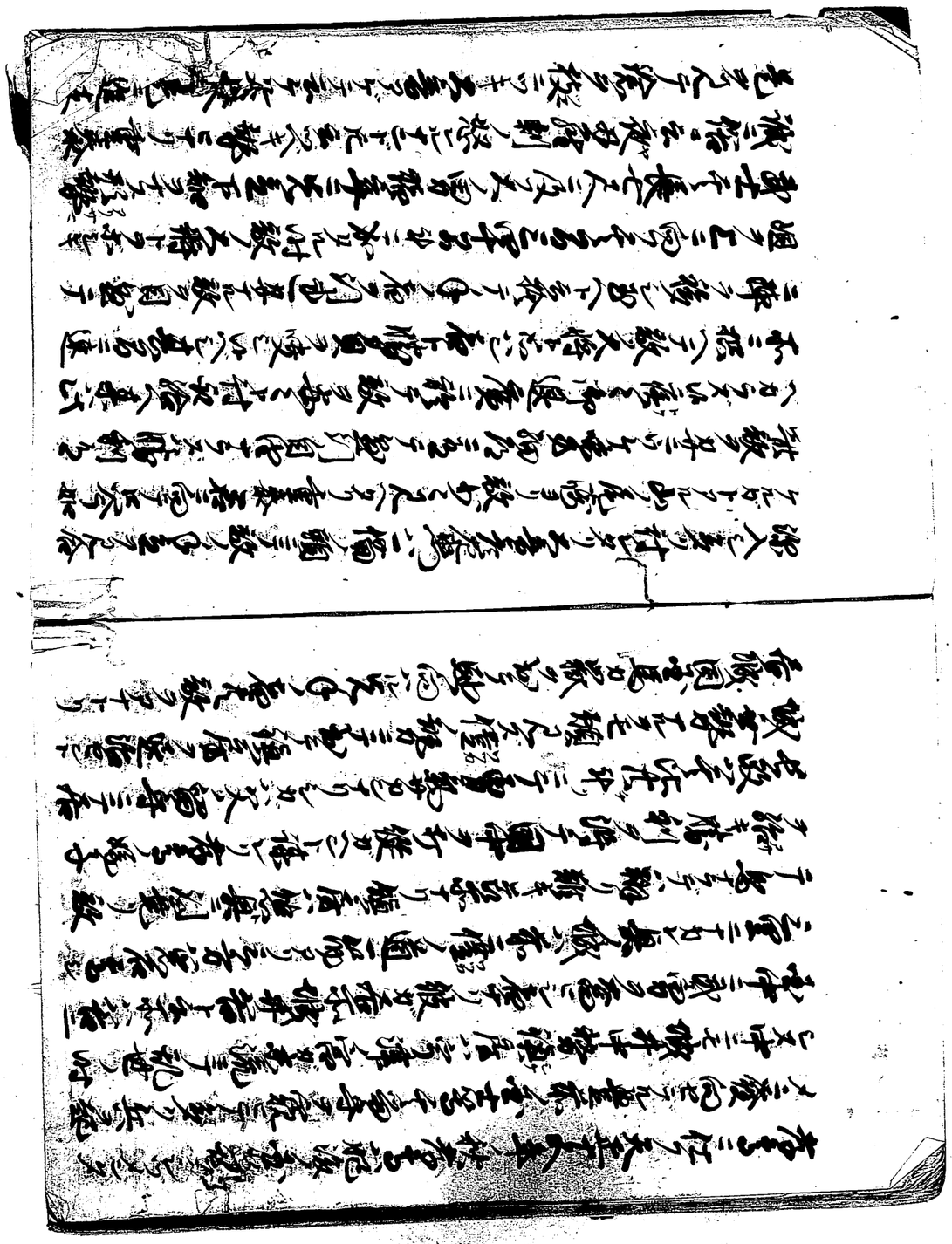
[illegible]ヤ[illegible]ミトサヌ中ラトス長政ヤ[illegible]ヒ家老[illegible]モハ[illegible]カニ
トノヌニヒケル二何モ朱柄ハ辛雷ニ御免ヲ[illegible]ニ[illegible]
惟ニハ[illegible]ハ[illegible]一日三首数七ツ知ル在ニヨリ朱柄ハ免
トル物トヌリハ兵馬ヒ日ノ武雷ヲ勝レタリトハ[illegible]ナ
ガラ首数タリトサヌニ朱柄ハイカヽトイヒケレバ長政ノ
宣旨ナリトテ朱柄ノ鎗ヲハ免玉ハズ千騎ナリ云
助一日三首七ツ家従兵[illegible]ヲ[illegible]首六都合十二ノ首
ヲ取テ長政ノ宝撿ニ備ヘ朱柄ヲ免サレテ一代朱柄
ノ鎗ヲ持セタリケル兵馬カ武功千数多ヲトイヘ[illegible]今詳
ニ悉リ伝ヘザレバ[illegible]ハモ与右ニ記ス此ニ[illegible]カリハ[illegible]ナレヘ[illegible]

長政[illegible]入国ノ後二千石ノ地ヲ與ヘ是軽ノ大[illegible]ニ[illegible]
ケル元和[illegible]年[illegible]十月廿九日歿ス行年五十七歳
○[illegible]

大喜兵庫傳

兵庫憲重泰父ハ[illegible]重[illegible]上ニ播州赤松カ[illegible]神[illegible]
源カ一家ニテ[illegible]事十三歳ヲ長七人ニ度ヒ[illegible]
ニリ[illegible]室ヲ[illegible]ヒリ[illegible]ヲ[illegible]
ヲ知ヒタリ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]
称セラレシ有也兵庫憲ハ千[illegible]子ニテ形力量リモ[illegible]
ラズ[illegible]武功ヲ願ヒ[illegible]ナリ後ニ[illegible]ノ次官

○重泰子ニ人[illegible]
[illegible]
重[illegible]
二男六[illegible]
重成
三男
十[illegible]
重治ニ人
[illegible]大男[illegible]



八方ヨリ五騎ト云ヘカリケル長政ハ家ノ子郎等大石兵衛重
秦ト云者ナリ郎等ヨリ郎等ハ数ニ有ヒ共ハ敵ニ有ヒ
テ有ケルヤカニ陣奥ヲ焼セント数ヲ現テ立ケリケレハ対
ニ彼ノ郎党ハ三人留テ主ヲ防ノ為ニ奉ケレハ敵ナカラヤサシリモ中
サレタリ人カヒシクハ此子ドモ中務カ一族ニ城井右衛門尉
居ケリサラハ五三騎ノ郎党ヲ率ヒテ敵四方ニ入回サセ
トスベシ敵方ノ郎ホ一人モ近付事ナカレト呪ニ所ノ鎧ノ袖ヲ
ヒルカヘテ只一騎駆ケ系ル所ニ右衛門ハ強ク盛ニテ千騎
人ニ勝レタル大ノ男力量尚以中ニ双ナキ郎党ノ達者
ニテ敵度城井カ一方ノ大将ト覚シタル男ヲ目ヲ付テ又重秦
モ重秦ニ記スカ如ク恪度武勇ヲ顯シ長老人ニ余リ力ヲ
異抽又ニモ勝リ剛強双ビナキ豪傑ノ士ナリ新ノ如ク双方
寄代ノ五騎男力ノ者ニテ互ニ鎧ヲ金セテ皆ト勝負モナ
カリシカ敵陣ニ落敵ヲ目ヤ二ヒ突切ル鎧ヲ金セテ皆ト勝負モナ
ノ脇腹ニアタル痛ヲ堪ヒ上ニ立タルホニ他組ホ上ニ大石ニトフ
ド倒レケルヲ頸ヲ取ントテ捨テ刀ヲ抜テ首ヲ
取ントシケルホヲ重秦代ノ大力ヲ敵ノ大力ヲ見ルホ
ヲ抜テ打払ケルニ大力強石カ面ノ脇ニ立アリ起倒レケル
長尾ノ五上リ首ヲ取ントス城井右衛門ハ起ヲ上リ
組ム三男力ヲ励シ押合ケルカ二ヒ力ノ強ホ

ニナリ中ニナリ縛ニケル三郎左衛門尉ハ怪
敵ヲ捉テ敵ノ胸板ヲ足ノ下ニ押ヘ左ノ手ニ三郎左衛
ニトス彼ノ左右ノ力ノ功名ナレハヤヨリサヘテ振セス重泰ノ命ヲハ
員ヌ已ニ撃カツカレテ抜ケサルヘカリシニ重泰カ家人笠ノ敵
上ニ成ケルカ手ヲ負テ助ケレハ重泰ツイニ彼ノ首ヲ取
彼カ抜ケル行列ノ後帯タル太刀ヲ取テ三郎左衛門ノ郎等
ヲ見ニトケレハ長政威儀限リナリ其ノ座ノ座ヲ下トシテ
脇ヲ見ヲ脇リ左ノ行列タル徳大寺ノ宮輿ノ後ニ威儀ヲ正サレケ
ル左ノ思ヒ事ニ三ツ添ヒ偽ヘテ家珍トス此ノ敵ヲ生リニ
ミカ子テ長政ノ郎等ヲ離ヲ其ノ門ヲ出ヲ左ヲ動キ

カラズ子ヲ抜ケ東ノ戦場ニテモ重泰ヲ大陣ニ於テ
タリ長政関ヲ東ノ郎等ニヨリ豊景ヲ那波ニ国ヲ
領セラル於ノ仆重泰ハ摂津屋村ヲ領セリ年七十
二歳同所ニテ病死ス別彼ノ地ニ葬ルトナリ

太音六郎重傳 実後九白大文字

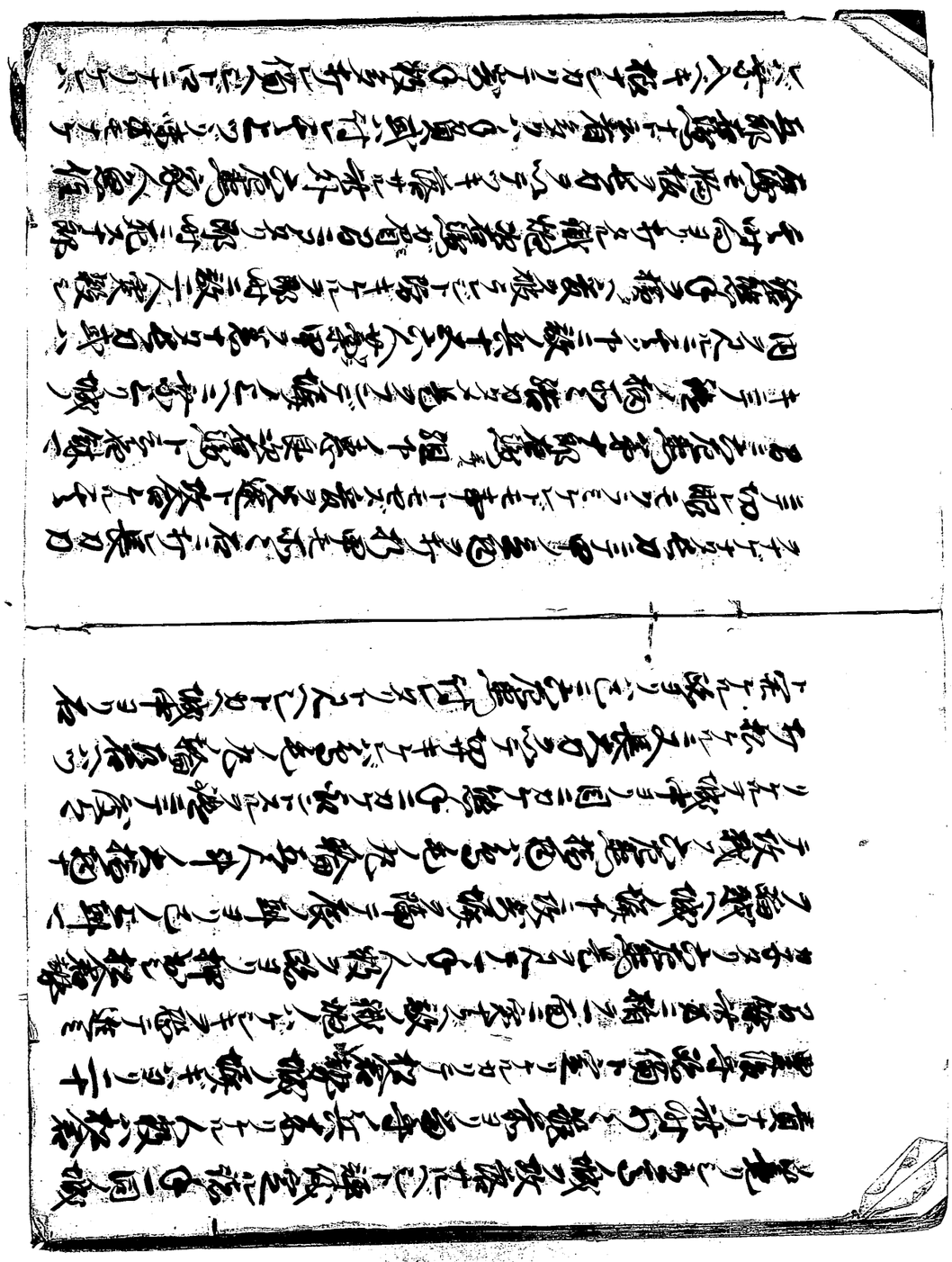
六郎重傳重成ハ右ニ記ス重泰カ子也重泰ニ人ノ男子ヲ
有モ嫡世帯ナル太ツ四郎ニテ力量人ニ勝レタリ中ニモ二男
重成ヲハ黒田長政ヲ仕ヘ武勇量ヲ称ジテ福名アリ
ヲヘシル長政逝去ノ後嫡子左衛門佐重成ヲ好ミ
足軽頭ノ惣奉行トセラル寛永十四年ニ寛永別潟原ノ

又再戦兵乱ヲ起シケル後之諸代ノクメ九郎兵衛石塚
勝集ル来武ヨリ為軍監使者因幡正石塚平蔵上使ノ長ニ二人
明日ヲ後サヌ江戸ノ方ニテ夜ヲ日ニツイテ名ヲキ十二月初ノ集
玉造ノ郡原田ノ屋ニ来陣セラル毛利原田右馬助忠之
在陣ノ内ニ能陣ヲ以テ振舞ニアリシ家老ニ今度上使ト
アレバ振舞ヨリ始原ヘ略次ノ家因終ニ議クメ右馬之助
ヲ可ニ稀ト命セラル先ニヨリ宗是但下ノ任ニ足軽二百
人引率シ原田ノ屋ヘ切回ヒ上使ノ人数加リ路次ノ家因
ヲヴシケル十二月六日御原ニツキ又松倉豊後守八御原ノ
懇ヲナル故家人ヲ集因ニ出ス御原ヘ徳川ノ戦笠

ヲル有馬ノ首ノ古城ノ跡ヲ俄ニ取立ル也也上使ノ三日御
ヲ三石馬ヲ乗レケル所ニ三ヶ道筋ノ安徳村ノ入口ノ道ヲ敵使
尼塚切ッテ出行ヲ以テ村ノ城ノ口ヲ塞切リ用心相ノ人セ
紙ノ旅ヲ切ニテ家ニ飯炊リ尼人タリ上陣ナリシ松
倉勝茂ニ出リ通ル事ヲ以ズシテ九リノ方浦ノ色ヲル山ヲ
島ニ出ル敵ノ拠ヲ同ニ人ニテ松嶽ヘ上使ヨリ遣ル
出ヘハ六尼馬ハ第ノ十郎左馬ニ上使ノ御景ニ乗リ城ヲ
打破リ一揆共ヲ切捨ル通リ上ベキヲ上セヲ付テ一天ヲ
馬ヲ乗ヲ通ニ外面ノ麻垣ヲ切破リ馬乗ニ張ノリ
知リ家人足軽共ヲ遣シ家ヲ無検セ一揆ヲ

居クソトヲ人ヘニテ或ハ食ヲ出シニヲキ又ハヌキ任意ニ出セテ
フタキステンソ重ミケル上使被遣ニ依テ指免ル数ノ多ク
モ行リ難キニ除リハシリヲテキ動キヤリ数ニ為ヲ失テ行減シエルハ
本意ナケレ共サレ共モ忠ハ立ントト成シテ出ル共家
内ノ勢ハ漢ノ国ヨリ起リケレバ上使ノ警備ニテリヌカリテ
同日無事行ヲ動ヒニテ引ケルニ又右ノ山ノ中ニ旗ヲ立ル人ヲ
四ニ様義ニ相ヒリヲ人ヘヲリ聞数ニテ上使ノ人ヲ系ニ入レントト
思ヲ取ヲ出シモ三三町斗進ミケルヨリ内脇ノ丘ヨリ使者来リ
右ノ意ヲ皆ヲ使ヘシト上メラルヒアリテ沼下ノ士ニ家人名彼
先数多指出シケルニ重テ又使来リスベテノ数ヲ遣ベ

カラズト上都セラル右ノ意ヲ以テ正メケレ共ヲ敵ヲ
高ノ石已ニ三町餘ニ人ヘケレ共下ノ伯ヒモ右ノ意ヲ家人ヒモ
也ニテ来リ数知近ヲリ恐ルベキニアラズトテ押テ進ミケル程
ニ右ノ意ヲ制シカネツヽイテ攻メ寄備フルニ夜ハ押ヲ入ケ
ルニ今ニテ大勝アリケル所ニ又人ヘテ右ノ為ヲ以テ数人モ出ル
ニヲ重タル狼藉ナリ上ニ出ル程セテ恐リカリト申セバ上使少ク動ク数
イカ程ヲ出ベキモ知サルニ依テ張行作ヨシト成ル所アリキ右ノ
類ノ事有ヲ為ヲ輝ニテノ石ニ箇度アリ且ツ城下ニツイ
テ陣取ノ付他警ニヒヲ三ヲ箇度ニテ則当ノ人ヲ引キアリシ故上使ヲ称
ヒヲセラルヒヲ事ハ文長ケレバ記サズ初ヲ年正月朔日彼ノ山賊

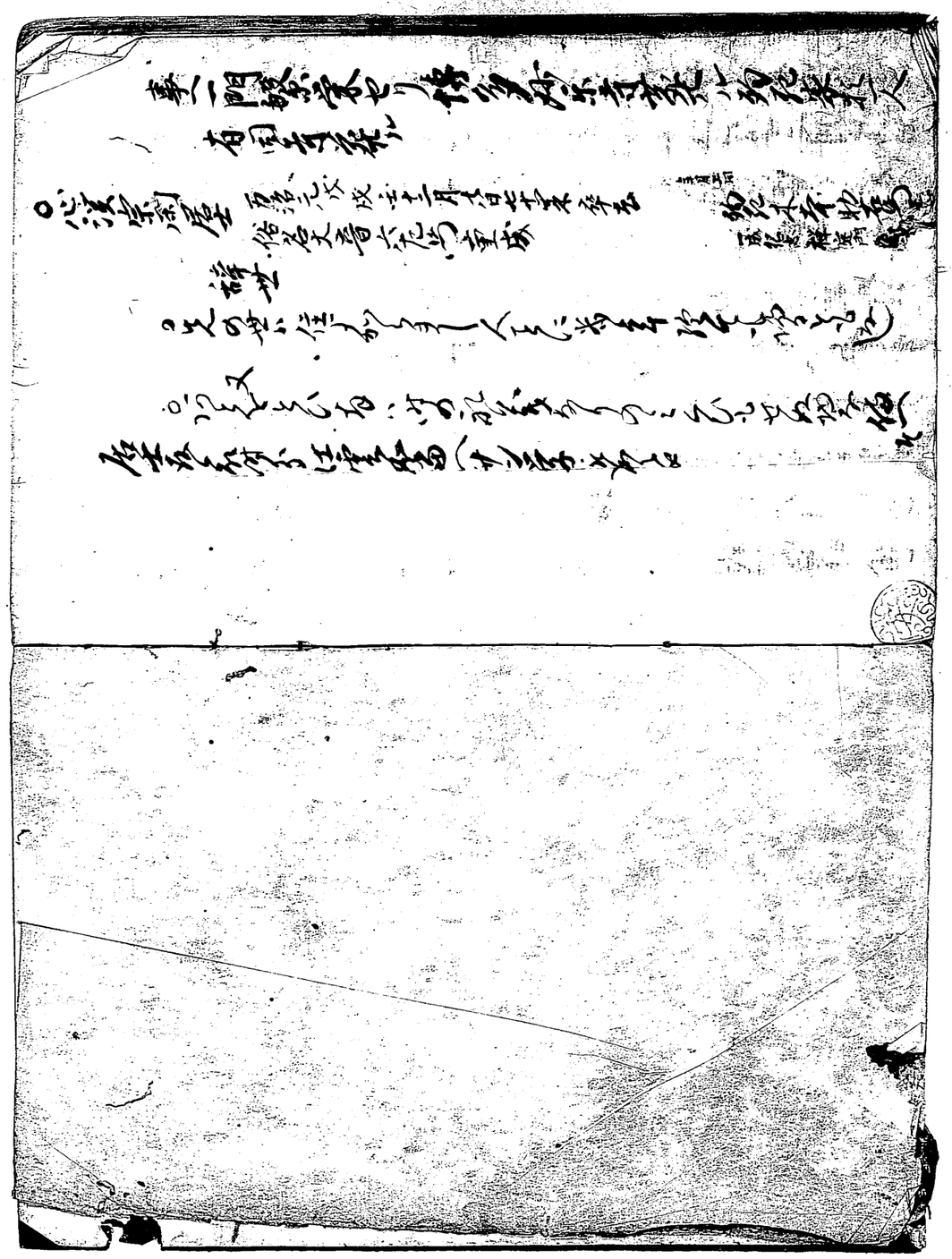
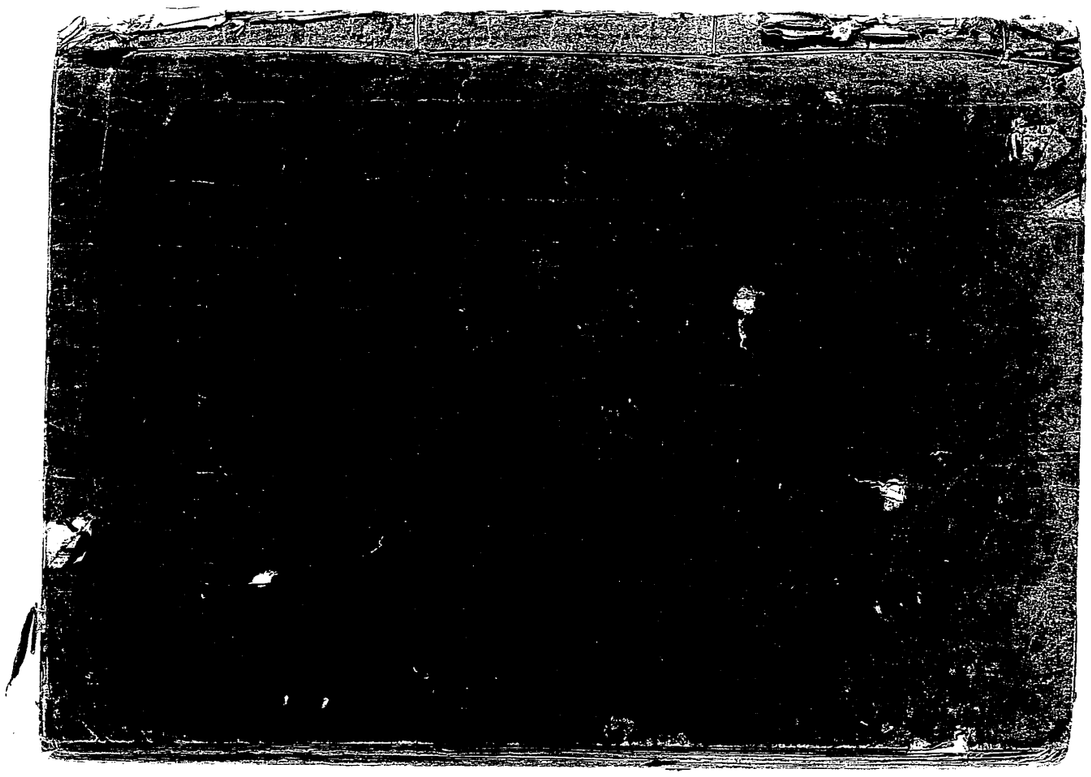


上使ヨリ指ノ手ニ使ヲ立テラレ沼津ヘ申ス上ハ毛利ヨリ援勢ヲ
出シ切リ立テ高麗ノ若ノサキニヨリ対馬ヲモ申ツズ程ニ我モ
ケルガモ海陸ノ出ル切ルヲンテ細ハトンと退キケレバ援軍撃
ニ付キ餘リラノ恐ヨリ海ニ切又彼ノ毛ノ九百三四分ラレ
ル様ニ軍中ニ照ロリテ人ヘケル今日重成カ動キ話申ス様
ニ上使モ各ノ自ラ驚カシ申ヒケルトカヤ正月末ニ帰リ黒田忠之
ノ高麗ノ陣ノ付年内ノ高麗ノ上使ノ案内トシ鳴原ヨリ
ノ高麗ノ路次ヲ示ス三ノ働キンバセノ次第ノ日ノ働トモ
使ヨリ一ニ特ニ大セラレケル後ノ忠之ノ高麗ヲ所ヲ申度ニ
動キ妻ノ申ヲトシケ神妙ニ思ル様ニ甲振セリ八十ノ老

カヘノ申ラ申ツカラサブケラレケル同二月二十日ニ城中ヨリ敵ノ
夜付ニ知ケル付ノ高麗ハ対馬ノ人数ト共ニ才一ノ生ノ人天草ノ長崎
ノ前ト示ノ高ノ高ノ付ノ音ラヤ一ノ士卒ラヒキヒ知ツ
一リ郡ヲ相攻戦ヒ申セケリ敵ニ三ケ所ニラレ毛ヨリ奇
計ヲキヘナダレカリ竹束ヲ立ツリ大人ケル付ノ出ケル者ノ
三人ノ捕ケル同月ニ城攻ノ付ノ人忠之天草ヨリ可攻
入ト知セラレ高麗ノ別ケ組ノ上様頭ラ引率シ速ニ出ス
ノ高ニ為ケル上様ノ頭ノ人余ラモ一同ニ高麗ニ掛ル旅ノ竹束
ラ切ノケ乗入ケル所ノ組ノ上様頭ノ人ノ所ヲ負ス
死半生ノ者アリカリテ黒田家ノ張撃ノ二天草ノ人

ル之尼馬向クルに二敵四人十人斗ノ先ニ進ンデ彼カ仏法ニ為ス
長刀法ヲ授テ打ツテ出ル之尼馬ノ千三人突伏ヘシ
外家人組ノ伝太郎ト世ト迫ンデ家敷ニ切伏一人モ上サズ打
於ニヨフニシメリケレ日日夫合本尼ニ次入面ノ渦ニハ黒田家ノ侍
尼城ノ口ノ二付テ敗上リコシ此之逢ト云戦ノ船ニ以ニ両ノ大軍
ニ寄ル右多カラズ人ヘケレバ之尼馬乞ヲ恵テ進ミケル兵ハ
人夫ハ三千撤抱ノ来ル事ハ多ノアシノ如シ兵ハ小キ小屋ノ九ツ
ル小屋ニ切リ人合セケレ共井筒七ト云ル侯ニ寄リ大軍ハ
ラニテ凡クルシ伺モカ命ヲ以テ七ヨ聖犯ニ入ルトハ知セラレケル
之尼馬長リ上トテ一番ニカケ出ル大軍ノ石垣ナラシノ上ニ示アカル

候ノ上ヨリハ石ヲ投失サニヨリハ長刀ヲ以テ突ツ切戦
フカ、ルに城ノ中ヨリ之尼馬カ甲ノ鉢ニ長刀ヲ突ツ子ケレバ
忽之尼ヨリ下ニ突落サレテ絶入シケルヲ家人大河之頭ニカケ
退ケルヲ忠之ニ高瀬ヲ舟ニ乗テ入ル之尼馬ヲ舟ヘ乗キ小屋
（垂）リテ人リ為セヨドイメワラレケル更ニ正家ナカリケルカ家ヲ引ヒ
ケレバ本中ヨリ之ニ正家ヲ初テ二便通シケレバ心ヲリス更ハ本
陣ヘリシト明意シ組下ノ伝中ヘ切ツ員タリヒ可為之尼
中ニ明サセシノ本尼ノ候下ノ伝ヲ切ケル明レバ二月廿九ノ卯ノ
刻ニ本尼ヲ家ニ入ベシトノ下知ナリ之尼馬豆人忠之
ノ家ニ知ケルニ度ノ働キニ備ヲ員ヌレハ世上ノ動キ也

ト頻リニ制セラレケレドモ多クノ戦地ニ千知宣ヒカラズシテハ攻口シ
トロニ攻ベシト云ヘ共此四ツ島ノ人全ク黒田甲斐ノ守長興ニ心ハ
尼崎ガ陸ノ社ヲヒカヘ以日ノ衛ヲ見ズハ今日ハ兵千ヨリ千
和ラセヨト頻ニ止メラレケレ尼又茶ノ如リ巻テ鎧ヲ近ニデ鎧
ヲ着セ来ヨリ本尼ヘ参ル人ハ皆ノ一騎ヲ乗ラシテケリ二十七八日
四日ノ働ノ中ニ敵ヲ寄ケル近リノ人ハ尼ケラレケル上意ニ有
一件度ノ我功意ゼ所度ノ一陣ニシテハ類ナキ事ナリト
仰ラレシモ此ニ上使ヨリ人ハ之ヘ寄リ涙ヲ流カシテ
レ恩之中伸ノ返信士ノ我功ヲ礼シ感状ヲ与シ如様ノ恩ヲ
モアタヘラレケル中ニモ上尼ハ八年間ヨリ上使ノ重用ニ条リ

路次ノ意ゼ正月朔日ノ働キ千波高日ノ城京ノ我功皆群ニ抜
メレバトテ貴ク加ヘラレ来地八千石ノ禄ヲ施シ家老ノ列ニ倚ラレ
ケル尼ハ長六十人ニ及ベル大ノ男高世布如ク黒ナリ甘
尼ハ心拙ク荒ニビストハ見ヘズ連歌茶湯花ナド弄ビテ
夢ノ和行イヤシカラス歌ヲ記シ家人ヲイタハリ衆人ヲ恵ミ常
ニ貧窮ノ多ク困ビシ故或ハ勅他ノ為ニモ日ハ貴
賤ノ容来テ下ヒニテ其名ヲ聞シ連歌俳諧ヲ聞リシ舞
在真多ク仕セリ邦君ノ政ヲ任セラレシカハ国民皆ヲ意愛
アルヲ仮ベリ行年七十歳ニシテ寿治元年正十二月十八日
後京福ニシテ病死スエ子ヲ孫ハ法ヲ黒田家ニ